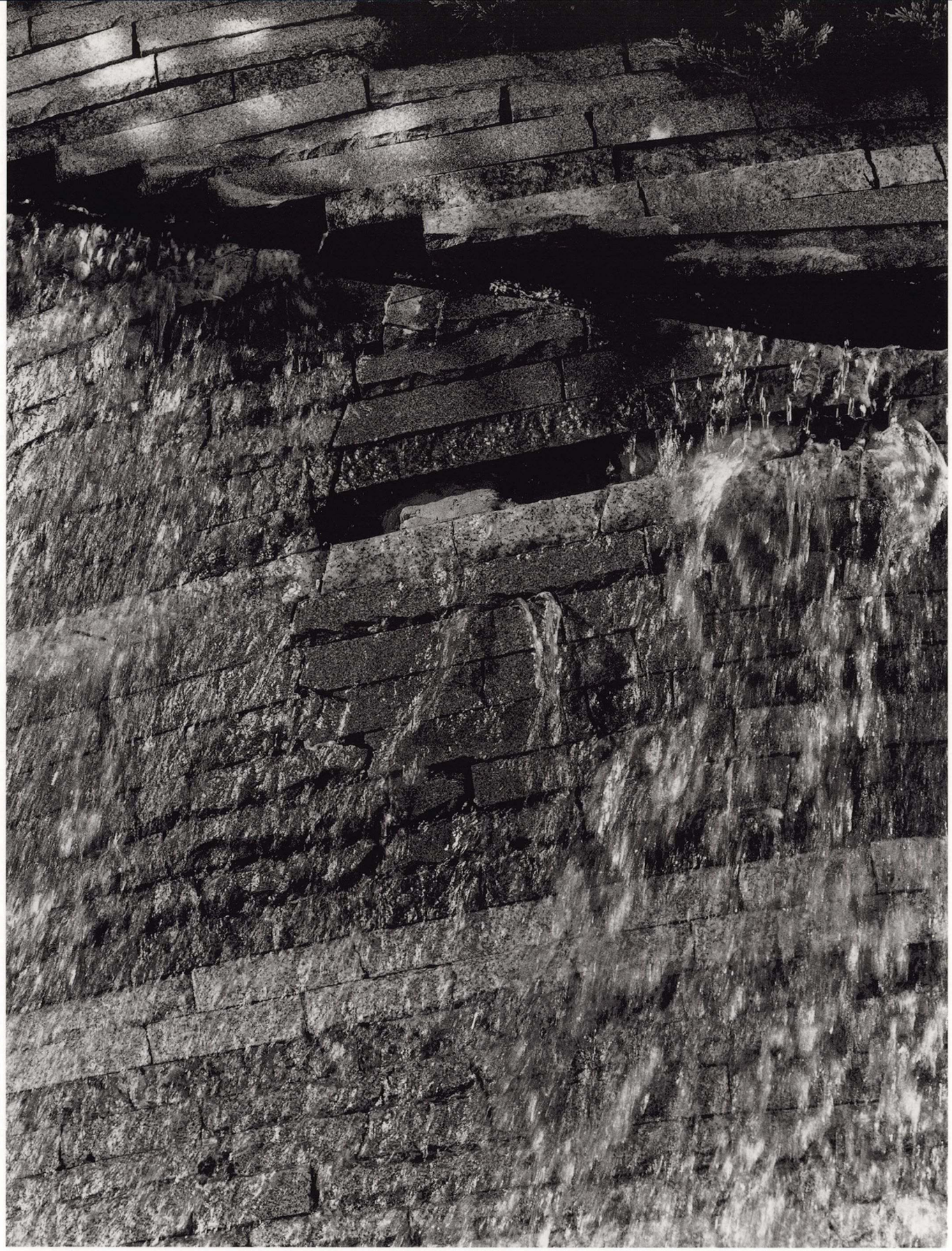


建築と社会 Architecture and Society

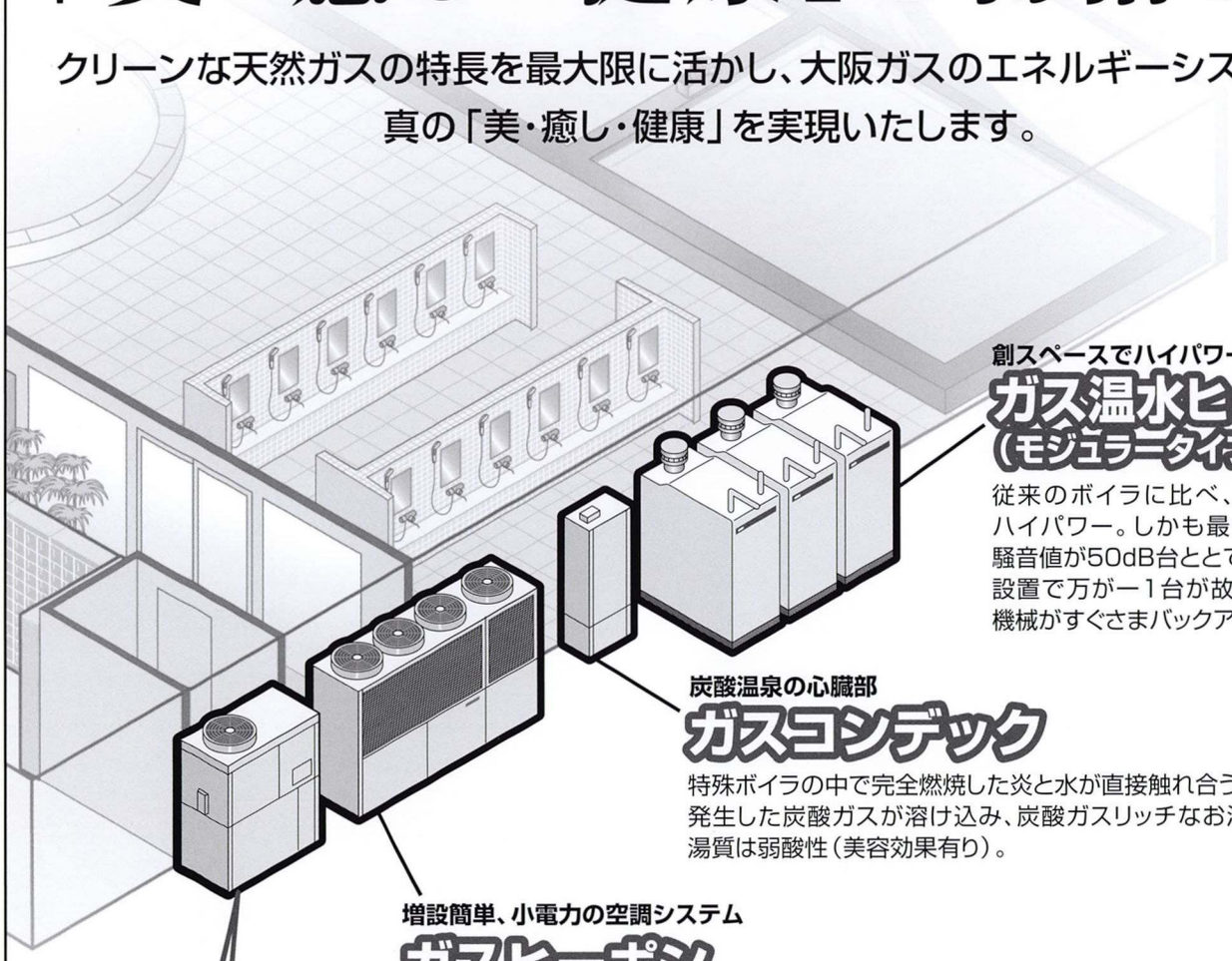
特集
銭湯〜心地よさを求めて〜

日本建築協会

08
2004

「美・癒し・健康」を目指して

クリーンな天然ガスの特長を最大限に活かし、大阪ガスのエネルギーシステムが、
真の「美・癒し・健康」を実現いたします。



創スペースでハイパワーな給湯

ガス温水ヒーター（モジュラータイプ）

従来のボイラに比べ、コンパクトでハイパワー。しかも最大燃焼時でも騒音値が50dB台ととても静か。多缶設置で万が一1台が故障しても他の機械がすぐさまバックアップします。

炭酸温泉の心臓部

ガスコンデック

特殊ボイラの中で完全燃焼した炎と水が直接触れ合うことによって、発生した炭酸ガスが溶け込み、炭酸ガスリッチなお湯となります。湯質は弱酸性（美容効果有り）。

増設簡単、小電力の空調システム

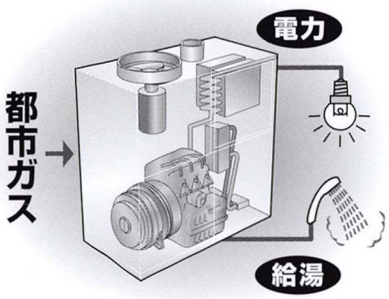
ガスヒーポン

快適性の創造に忘れてはならないのが空調設備。温浴施設の大空間にもガスヒーポンなら小電力なので安心して設置できます。またエネルギーコスト削減にも威力を発揮します。
しかも、ハイパワーマルチ なら80Wの超小電力なので、さらにお得です。

マイクロ コージェネレーション

ジェネライト

大量のお湯が必要な公衆浴場にとって、エネルギーコストの削減は大きな課題。
マイクロコージェネジェネライトは、ガスを燃料として発電し、その排熱を有効利用してお湯を沸かすため、**省エネ、省コストの理想的なエネルギーシステム**です。



ジェネライトラインナップ



5kW　6kW　8kW　9.9kW　22kW

大阪ガス
〒541-0046 大阪市中央区平野町4-1-2　06（6205）4670
大阪ガス株式会社 エネルギー事業部 エネルギー開発部

若き創造者たちへ

「建築と社会」平成16年12月号
「第51回青年技術者特集号」へのおさそい

日本建築協会誌「建築と社会」は毎年「青年技術者特集号」を企画し、すでに50回にわたって若き優秀なプランナー、アーキテクト、エンジニアをめざす人たちを紹介してきました。

今回も、青年技術者選考委員会を設けて、青年技術者を選考いたしますが、昨今の建築に携わる技術者の多様化を考慮し、設計だけに限らず、計画、構造、設備、施工およびその他広く、建築に関連する分野から、優秀な青年技術者を募って、その不断の研究努力とすぐれた実績への情熱などを、「建築と社会」に掲載し、顕彰することにしております。

51回の企画にあたり、日常目立たない対象の実績も含めて、優秀な実績を積まれている青年技術者のみなさまのご応募をお待ちしております。

応募提出規定

1．応募される人は満35歳（平成16年9月末日現在）以下の青年技術者であって、本会個人会員に限る。

2．原則として、本会会員であるすいせん者を通じて応募する。

すいせん者は被すいせん者（青年技術者）の勤務する組織の上司か上長とする。すいせん者が学校教官である場合はこの限りでない。また本人が組織の代表者である場合は自せんとする。

3．応募分野は特定しない。応募者は、たとえば計画、一般設計、住宅・インテリア設計、構造、設備、施工、技術開発、行政、情報、コーディネート等々その他の分野にあって、なしとげたすぐれた実績について、すいせんをうけ、下記の所要の資料を本会に期日までに提出する。

4．提出された資料は「青年技術者選考委員会」にかけて選考する。

5．「青年技術者選考委員会」において選考された青年技術者は「第51回青年技術者特集号」（平成16年12月号）に掲載するとともに、記念品を贈呈する。

＊第48回から、すいせん者による「すいせんのことば」を省いています。応募提出規定に沿って、応募資料をご提出下さい。

6．**提出資料**

■すいせん用紙

■略歴

本人の氏名、生年月日、最終学歴、業歴、作品経歴など

■選考資料

資料は、④を含めてA3判用紙**5枚以内にまとめる。**

①　設計の場合――鮮明な写真、配置図および主要平面図、概要、設計要旨、その他設計内容を説明するに十分な資料

②　計画、構造、設備、施工の場合（それぞれの設計計画なども含む）――上に準じた資料

③　上記以外の分野の場合――それぞれの分野にふさわしい資料

④　上記①～③のいずれかの資料の実績において、応募者本人が関与した程度、役割、立場等を明らかにし、資料中、本人が特に貢献した部分、または力量が活かされたと思われる部分の詳細な説明、考え方および将来的展望などについて、**2000字以内に平易簡明にまとめたもの**（必要に応じ、図・表を用いて差し支えない）。ただし応募者・本人の執筆に限る。

このコンセプトは、応募者の考え方を知る上で大変重要と考えているので、十分配慮されたい。

7．**提出期限**　平成**16**年**9**月**17**日（金）

8．**提出先**　日本建築協会「青年技術者選考委員会」
〒540-6591　大阪市中央区大手前1-7-31
大阪マーチャンダイズ・マートビル7階
電話 06-6946-6981　FAX. 06-6946-6984

9．**青年技術者選考委員会**（平成16年度）

委員長　設楽　貞樹／安井建築設計事務所取締役大阪事務所副所長
委　員　末包　伸吾／神戸大学助教授
貴志　雅樹／貴志雅樹環境企画室
佐々木正人／竹中工務店プロジェクト推進本部長
松村　孝治／東畑建築事務所取締役設計本部長
多田　元英／大阪大学大学院助教授
樫原　健一／鴻池組エンジニアリング部長
三浦　満雄／日建設計設備設計主管
田辺　光雄／清水建設関西事業本部設計第3部設計長
梅原　弘記／大林組本店建築工事企画部部長
梶川　賢一／大成建設関西支店建築部工事計画室次長



私の空間作法

日本建築協会■会員作品特集

作　品　募　集

「建築と社会」平成16年11月号の

「第11回会員作品特集号“私の空間作法”」

「建築と社会」11月号では会員作品発表の場として、**“第11回会員作品特集号・私の空間作法”**を企画しております。
対象は、建築、ランドスケープデザイン、インテリアデザイン、まちづくり、アート等、建築に関わるすべてとし、表現方法は、写真、CG等の別を問いません。
みなさまの個性あふれる作品の応募をお待ちしております。

※

■提出資料

作品は、竣工作品、計画案を問いません。下記要領に基づいてお送り下さい。

1．写　真　外観・内観・ディテール・模型写真等のプリント
（サイズはキャビネ判程度、5～6枚）

2．CG等　パース、コンセプト図等
（パースの写真撮影等は致しかねますので、印刷原稿となる状態でお願いします）

3．概　要　作品名称、所在地、設計者、施工者名、建築面積、延床面積、構造規模、工期など。

4．説明文　作品についての考えを300字程度にまとめて下さい。

■掲載に際しての補足

1．掲載料は無料です。誌面は白黒ページとなります。

2．写真の撮影者名は必ず付記願います。
写真に著作権等が生ずる場合は、応募者にて処理願います。

3．掲載頁数は、原則として、1社（1人）1頁とします。
また、8月末までに竣工予定の作品を掲載希望の場合、写真等の原稿期日は配慮致しますので、ご連絡下さい。

4．建物の特徴や特殊な事柄については簡単な補足説明をお願いする場合があります。

5．作品の掲載順及び誌面レイアウトを含む特集全体の構成は、委員会にて担当致します。また、応募作品多数の場合等は、編集の都合により掲載できないこともありますのでご了承下さい。

■原稿期日及び送付先

1．期　日　**2004年8月30日（月）必着**

2．送付先　社団法人 日本建築協会編集委員会
「会員作品特集号」係
〒540-6591　大阪市中央区大手前1丁目7番31号
（大阪マーチャンダイズ・マートビル7階B室）（私書箱107号）
TEL. 06-6946-6981　FAX. 06-6946-6984

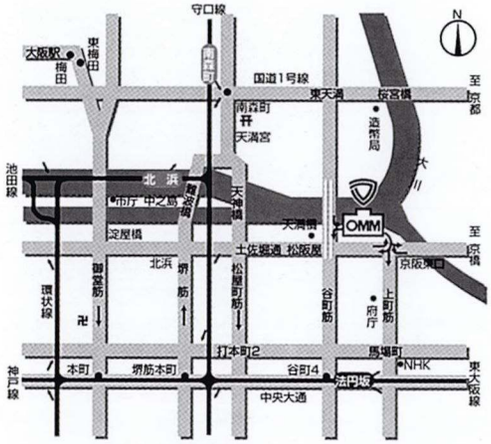
会告

会員の受賞

去る７月12日、(株)日建設計 上席理事 都市・建築研究所長：(社)日本建築協会理事**與謝野久** 氏が、建築界における多年の功績によって、国土交通大臣表彰を受賞されました。
ここに誌して、その栄誉をお喜び申し上げます。

本会事務所は6月にOMMビルへ移転しました

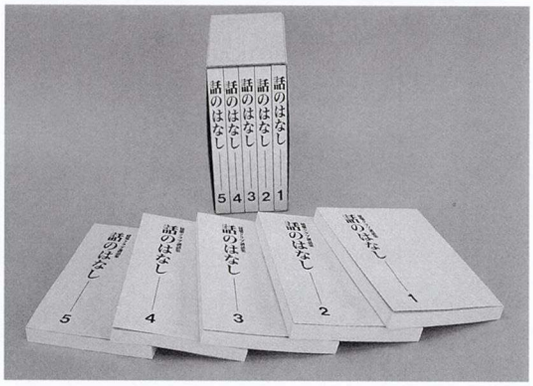
日本建築協会の事務所は、大阪マーチャンダイズ・マートビルの７階に移転しました。
大正６年３月30日、事務所を本会創設委員のひとり片岡安の事務所内に置いて発足し、昭和58年12月22日、大阪駅前第３ビルに居を構えました。そして今回11回目の移転です。
新事務所は眼下に大川の流れを臨む所にあり、京阪電車、地下鉄谷町線の天満橋駅に直結しております。現在工事中の京阪新線が開通すれば市内各所からのアクセスも至便の場所となります。
新しい場所で、新しい気持ちで協会活動を推進すべく各委員、事務局員ども心機一転取り組む所存ですので、会員各位には倍旧のご支援を賜りたく、本誌面をもってお願い申し上げます。



〒540-6591
大阪市中央区大手前
１丁目７番31号
大阪マーチャンダイズ・
マートビル７階Ｂ室
TEL 06-6946-6981
FAX 06-6946-6984

講演記録集「話のはなし」残部頒布します!

昭和47年6月に発足した「建築クラブ」（日本建築協会会員有志の集まり・現在休会中）は1997年、朝食会の第300回を記念して、講演速記録を集約し、最終的に118回分を5冊1セット（1冊平均約320ページ）の本にして発行いたしました。
「話のはなし」の講話の内容はとても多彩で、「おもしろい話」「貴重なはなし」「裏ばなし」などがいっぱい詰まっています。
ご希望のかたは電話またはFAXでお申し込み下さい。
申込先：日本建築協会事務局
TEL.06-6946-6981　FAX.06-6946-6984



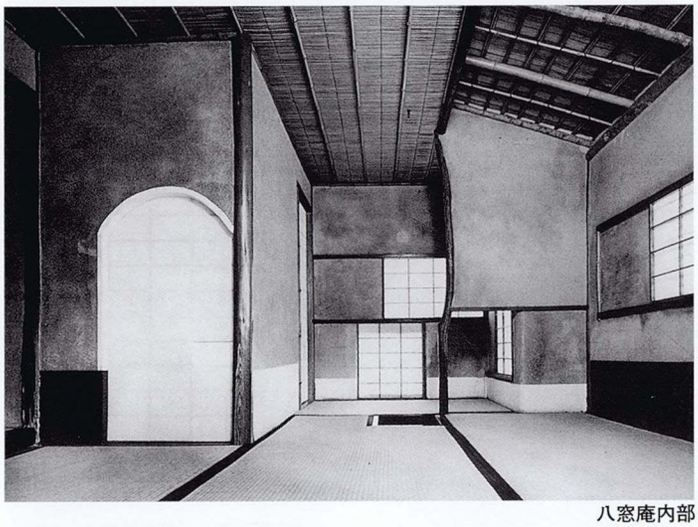
B6判　5分冊

茶室見学会
第21回
奈良の八窓庵
―伝古田織部



八窓庵平面図

日　時　2004年9月17日(金)
14:00―16:00
講　師　中村昌生
京都工芸繊維大学名誉教授
集　合　現地・奈良国立博物館　新館エントランス／JR奈良駅より徒歩20分。近鉄奈良駅より徒歩15分。
定　員　30人＊申込者多数の場合は抽選
参加費　会員 4,000円、一般 5,000円
学生半額　＊税込
申　込　9月9日(木)までに
①催し名：茶室見学会
②氏名
③会員・一般の種別
④職場名または学校名
⑤参加証郵送先及び郵便番号
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
申込先　(社)日本建築協会編集事業課
大阪市中央区大手前1-7-31
OMMビル7階(私書箱107号)
〒540-6591
TEL.06-6946-6981
FAX.06-6946-6984
e-mail : jigyoka@aaj.or.jp
主　催　(社)日本建築協会
事業委員会情報見学小委員会
担当主査　森田芳次／安井建築設計事務所


八窓庵内部

今回は、利休の後継者となった古田織部（1544-1615年）の作と伝えられる奈良国立博物館構内の茶室を見学します。織部は美濃に生まれ、信長に従って戦功を立てた武将ですが、秀吉に「武門の茶法」を制定するように要請された伝えがあるように、利休から学んだ茶の湯を武家社会にふさわしい形式にまとめ、同時に視覚的な表現を茶室に取りいれたといわれています。その後、徳川将軍家の茶道指南役となり、茶匠としての最高の地位に就きました。
八窓庵は、三畳台目に一畳の貴人座が付くL型の平面で、正面に躙口を設け床前の貴人座を際立たせる構成になっています。ただ、織部の代表的な茶室である燕庵形式との相違から本人の作か疑問が残り、「伝」とされています。しかし、窓の配置など壁面の構成が端正に整えられている点なども織部らしさを表現しています。　（森田芳次）

日本建築協会・阪急電鉄
共同企画
〈モダン建築再見2004〉

近代建築は関西がおもしろい!

ときには街を歩いて
ときにはレトロな空間で
関西近代建築の魅力を
ともに探ってみませんか。

コアなテーマを
楽しく掘り下げるシリーズ企画
いよいよスタートします。

昨年の8月末から「近代建築を学ぶ会」と称し、阪急電鉄㈱創遊統括部とともに企画を進めてきました〈モダン建築再見2004〉がスタートします。
本年度の企画はレクチャー（座学）2回とフィールドセミナー2回の計4回です。ここでは様々な「近代建築」とその誕生の背景を学び、建築が果たしてきた社会への役割を再認識するとともに、建築文化の素晴らしさの一端にふれていただくことを主眼としています。企画の詳細は次号よりこの会告欄にてご紹介しますが、各パートの講師陣はいずれも当代きっての建築史家の方々であり、企画実現のために特別にご登場願うことができました。
また、参加者の対象は建築専門の方々だけではなく、建築に関心をお持ちの一般の方々まで裾野を広げています。本会がもつ歴史的な財産とネットワーク、阪急電鉄がすすめられる文化事業「阪急歴史街道フィールドセミナー」の実績、それぞれの特質を生かし融合させることによって、建築の文化活動がいっそう活性化されていくことができればと願っています。
会員の皆様の多数のご参加をお待ちいたします。

■第1回：京都市内見学
関西近代建築の父 武田五一


武田五一

【A日程】9月11日(土)
【B日程】10月2日(土)
講師：石田潤一郎
京都工芸繊維大学教授
集合：9時30分・関西電力京都支社1階ホール（現地解散16時頃）
見学：東本願寺内事所他主な武田作品
参加費；9,000円(会員500円引・各先着50人)

■第2回：講演&シンポジウム
近代建築の挑戦者たち


大阪倶楽部

日時：10月30日(土)
13：30(会場13：00)
場所：大阪倶楽部(設計:安井武雄　大正13年)
講師：坂本勝比古・石田潤一郎
山形政昭／大阪芸術大学教授
梅宮弘光／神戸大学助教授
ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ：中川　理／京都工芸繊維大学教授
参加費；3,500円(会員500円引・先着100人)

■第3回：神戸市東灘見学
阪神間の郊外住宅地をよむ〔御影・住吉〕編


旧村山龍平邸／洋館部

日程：11月13日(土)
講師：坂本勝比古
神戸芸術工科大学名誉教授
集合：9時30分・阪急御影駅浜側広場（現地解散15時30分頃）
見学：旧村山龍平邸・旧乾新兵衛邸他
参加費；6,500円(会員500円引・先着50人)

■第4回：講演&シンポジウム(十懇親会)
パトロンが育てた建築家と建築


御影公会堂

日時：12月4日(土)
14：00(開場13：30)
場所：御影公会堂（設計:清水栄一　昭和8年）
講師：福田晴虔／西日本工業大学教授
ほか（交渉中）
ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ：橋爪紳也／大阪市立大学助教授
参加費；3,500円(会員500円引・先着100人)
＊懇親会は参加希望者のみ(3,500円)

問合せ　日本建築協会編集事業課　TEL.06-6946-6981　FAX.06-6946-6984
事務局　阪急電鉄㈱創遊統括部　TEL.06-6373-5327　FAX.06-6373-5329



「日本建築協会80年史1917-1996」

増刷頒布中　頒価　3,000円

1999年７月に発刊した「日本建築協会80年史1917-1996」は、各方面から好評をいただいておりますが、このたび、皆様の強いご要望により、増刷・頒布することにいたしました。大正６年３月30日に関西建築協会として誕生した日本建築協会の80年の歴史を、様々な事業や委員会活動を通じて、また、本会設立者の片岡安、武田五一以降現在までの会員たちの社会活動を通して知ることができる記念誌として、A4判・240頁にまとめています。

とくに、協会草創期の大正・昭和初期の片岡安ら協会のメンバーと当時の大阪市長・関　一との交流を物語る一文は、大阪の都市計画史、あるいは関西の建築人物誌ともなっています。本会の歴史を知るだけでなく、建築を通して、それぞれの時代の雰囲気を身近に感じることができる大変貴重な資料となるものです。

購入ご希望のかたは、下記要領でお申し込み下さい。

＊

申 込 先　社団法人 日本建築協会
〒540-6591　大阪市中央区大手前1-7-31
大阪マーチャンダイズ・マートビル7階B室
TEL 06-6946-6981　FAX 06-6946-6984

頒　　価　１部3,000円（税・送料込み）

※増刷部数には限りがございますので、お早めにお申し込み下さい。

「日本建築協会80年史」

A4判・240頁・並製本

●日本建築協会の沿革／委員会活動／「建築と社会」の変遷／大正時代から現在までの本会主催の博覧会・展覧会・講演会／よろず相談住宅展／青年建築家・青年技術者顕彰／工高生デザインコンクール入選者etc.

●日本建築協会創立者と会を支えた38人のプロフィール（片岡　安・設楽貞雄・武田五一・池田　實・波江悌夫・竹腰健造・尾崎久助・東畑謙三・塚本猛次・福田朝生・佐野正一・葛野壯一郎・横濱　勉・松本禹象・宗　兵蔵・園部文雄・日高　胖・野村一郎・古宇田　實・松室重光・松井貴太郎・安井武雄・中澤誠一郎・坂　静雄・今林彦太郎・井上新二・松本儀八・池田宮彦・錢高輝之・中西六郎・大林芳郎・鴻池藤一・伊東五郎・竹中錬一・鷲尾健三・松村雄吉・横尾義貫・足立　孝）

●座談会「戦中から戦後初期の協会活動」―尾亀清四郎・大林芳郎・小西　岬・佐野正一・横尾義貫・三品哲夫の6氏による終戦前後の協会活動の証言―

＊

■執筆ワーキンググループ
坂本勝比古／安達英俊／石田潤一郎／植松清志／梅宮弘光／桐浴邦夫／酒井一光／橋寺知子／山形政昭／吉田高子／和田康由

■80年史編纂委員会
長谷部朔郎／安達英俊／近藤達夫／谷淳之介／十倉　毅／原見昌志／和田康由／吉田悦二



「日本建築協会の遺産と功績」（坂本勝比古）より



「草創期の人々」より片岡安の項

「建築と社会」誌

特集一覧●1982~2003

大正6年3月に誕生した日本建築協会（当時・関西建築協会）の、機関誌は大正6年9月に「関西建築協会誌」と題して創刊された。大正8年に「日本建築協会雑誌」、さらに1年後には「建築と社会」と改題し、今日に至っている。

取り上げてきた特集テーマは下記のとおりで、バックナンバー購入希望は、日本建築協会事務局（TEL 06-6946-6981、FAX 06-6946-6984）まで。販売価格は1200円（送料・消費税含）。

号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1982 vol.63	●新たな商業空間の展開＊	●省エネルギーと開口部＊	●医療施設―地域医療と設備計画＊	●近畿の地盤と地質＊	●都市景観―まちなみ美観への誘い＊	●大阪市庁舎（第1期）＊	●ホール建築と音＊	●大スパン構造＊	●昭和設計作品集＊	●絵本にみるすまいとまちづくり ●オー・エム・ホテル日航ビル	●第29回青年技術者 ●地方の庁舎建築＊	●風土・空気と人間＊
1983 vol.64	●関西の建築文化を考える	●マイコンの建築への利用	●多様化する運動施設＊	●建築と品質管理	●計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション	●大阪駅とターミナルビル	●維持管理と設備更新	●東海の将来と文化を考える	●オフィス・インテリアの変革	●プレストレスト・鉄筋・コンクリート構造	●第30回青年技術者 ●大阪城国際文化スポーツホール＊	●集合住宅と生活音
1984 vol.65	●21世紀への関西―魅力あるまちづくりを問う	●関西の超高層ビル＊	●ビルのリフレッシュ―内外装補修技術の現状と発展―＊	●建設産業とロボット開発＊	●住環境と法制度	●まちの活性化と商業空間 ●京都駅南口再開発ビル＊	●消防設備のポイント	●みどりとそれをとりまく人々＊	●高齢化社会と生活空間	●床の構工法	●第31回青年技術者 ●ディテールの思想	●光応用システムと建築
1985 vol.66	●大阪湾物語＊	●東海の現在と近未来	●自由様式への道―建築家安井武雄 ●建築物の基礎を考える	●情報化をめぐる建築・都市事情	●ホール―それが生みだす文化―	●建物の表情―最近の外壁材料	●大阪国際見本市新会場	●建築と水の演出 ●神戸研究学園都市	●都市と健康・スポーツ	●接合―人体と建築にみる― ●日建設計作品＊	●村野藤吾の一断章 ●伊勢湾をめぐる東海	●第32回青年技術者
1986 vol.67	●これからの住空間―都市型集合住宅にみる	●屋根―そのデザインと素材	●現代デザイン―ポストモダニズム10年 ●これからの防水工法	●インテリジェントビルの建築・設備計画	●自治体営繕と公共建築	●建築防災と法 ●大阪市庁舎（第2期）	●21世紀の住宅と設備	●開発―その創造的仕掛けの鍵をもとめて― ●ツイン21	●CAD―その応用と展開	●オフィス空間の構成	●第33回青年技術者	●インテリア・イクステンションとリニューアル
1987 vol.68	●入浴物語	●腐食	●創立70周年記念号	●躍動する東海へ	●貯蔵・保管施設 ●大阪府立体育会館	●室内の仕上床	●駅	●行政建築家の可能性	●シティホテルの設備	●宝塚の街づくり＊	●建物と町並みの接点 ●昭和設計作品集	●第34回青年技術者
1988 vol.69	●ホテル物語	●軟弱地盤と基礎 ●文化と伝統―東海からの報告	●設備におけるLCCとリフレッシュ ●東畑建築事務所作品集	●建物の外装リフレッシュ＊	●都心居住	●中国地方の展望とひろしまのまちなみ	●21世紀への照明＊	●制振＊	●超高層住宅を考える	●集合住宅のリフレッシュ＊ ●大阪府営善	●第35回青年技術者 ●800号記念＊	●讀賣テレビ
1989 vol.70	●夢をのせる輸送設備	●リゾート事情 ●竹中工務店創立90周年記念	●色の復権 ●東海の新建築と伝統技術＊	●省力化のための材料・工法	●まちづくりと法	●博覧会とまちづくり	●都市環境創造と設備I	●建築とアート	●構造の省力化 ●鹿島建設・大阪支店建築設計部作品集	●都市環境創造と設備II ●ユーザー参加のハウジング	●第36回青年技術者	●最近の博覧会パビリオン
1990 vol.71	●商品化住宅のデザイン＊	●ニュータウン・ルネサンス	●東海の都市景観 ●住賀市文化会館＊	●スケール感	●プレハブ住宅技術の現在と未来	●国際花と緑の博覧会	●建築家のための設備知識―中規模オフィスビルによるケーススタディー	●高強度化―設計の多様化をめざして―＊	●やわらかな住宅管理・ユーザーの役割	●都市のナイス・プレイス ●兵庫県営緒の歩み	●第37回青年技術者 ●和歌山県の展望と景観＊	●高級感―建物の顔：感性の時代を迎えての外装材
1991 vol.72	●新しい都市空間づくり―I― ●オフィス・プレジャー ●新しい都市空間づくりII― ●建築の風景	●東海支部復活30周年記念	●大阪東京海上ビルディング	●今、京都 ●建築家のための設備知識―複合商業ビルによるケーススタディー	●建築と土木 ●毎日放送本社ビル ●近畿地方建設局営繕部	●一般号＊	●建築をめぐるトラブルとその解決 ●建設現場のイメージアップ作戦	●空間のアイデンティティ ●きんでん写真集 ●大建設計40周年	●自治体住宅政策への提言 ●大林組創業100年記念	●建築と土木―構造技術の世界― ●第38回青年技術者	●スリムでタフなコンクリート ●21世紀の住まいを考えるシンポジウム	
1992 vol.73	●夢物語―人がかわる、まちがかわる― ●こだわりのインテリア ●近畿の郵政建築15年の歩み	●建築とデザイン―東海支部―＊	●建築家のための設備知識―集合高層住宅の設備システム―	●地球環境時代の建築	●街創り、住まい創り―住宅・都市整備公団関西支社10周年―	●木構造を使ってみませんか―集成材による構造―＊	●接着―建築分野への限りなき可能性	●中国地方の町並みと建築家の「語り、夢、作品」＊	●屋台―仮設の魅力に学ぶ― ●ハウジングのメインストリームを探る	●いま建築教育に何が期待されているか	●京のかたちと色	
1993 vol.74	●第39回青年技術者 ●東畑建築事務所創立60周年記念作品集	●大阪府営緒	●東海の美術館・博物館	●市民劇場の舞台設備	●環境―限りある自然と建築とのかかわり	●都市のスカイライン	●映画の中のインテリア ●けいはんなプラザ・住友ホール	●建築の再生―構造技術の役割― ●大阪市営緒	●国際的パートナーシップの可能性	●福祉のまちづくり	●都市型住宅再考	●第40回青年技術者 ●環境―人にやさしい空間創造をめざして
1994 vol.75	●コピー文化の新時代 ●広島の街創りアジア競技大会	●九州のインスタレーションと貌	●伊勢・神宮式年遷宮と神宮界隈＊	●建築のエネルギーシステム	●明日に向かって―会員作品＊	●いま、医療施設は	●住空間における居どころへの視点	●まちなかの看板 ●竹中工務店の集合住宅	●水と建築 ●日本建築総合試験所	●建築設備のCGシミュレーション ●村野、森建築事務所	●構造美―建築の中の美 ●集合住宅団地リニューアル	●第41回青年技術者 ●関西国際空港
1995 vol.76	●光がつくる風合の世界＊	●音―騒音から操音/創音へ	●飛騨・美濃―まちの活性化と地方文化＊	●トイレから見た都市文化	●トイレ空間	●接合 ●コスモタワー	●ユニバーサルデザインとは	●私の空間作法―会員作品	●新しい「都市・建築」の視点＊	●建築構造と社会の接点 ●日建設計＊	●ライフラインと建築設備＊	●第42回青年技術者 ●滋賀県建築課
1996 vol.77	●阪神大震災から学ぶ＊	●大阪府住宅供給公社創立30周年記念＊	●遠江―その地方振興と文化＊	●立体駐車場設備 ●大建設計	●災害！非常時に生きる法体系 ●OAPタワーズ	●いま、プールがおもしろい	●住まいの未来像	●マルチメディアがつくる世界	●キーコンセプトの新時代	●最新の大規模スポーツ競技施設の設備	●私の空間作法'96 ●九州の元気 ●りんくうの3作品	●第43回青年技術者 ●近畿地建営繕部
1997 vol.78	●建築のロングライフ化をめざして	●鉄ものがたり＊	●東海支部会員作品 ●金沢・能登―風土・文化とまちなみ・建築＊	●創立80周年記念/建築と私と社会―80人の眼―＊	●木造建築物の伝統技術とその将来	●住む空間の復興―法・制度の運用と新たな展開へ― ●住都公団関西支社	●素材の不思議 ●大阪ドーム	●新エネルギー ●住宅・都市整備公団改革への提言	●クロスワード都市OSAKA＊	●モザイク都市の住むかたち ●昭和設計40周年	●私の空間作法―会員作品―	●第44回青年技術者 ●京都駅ビル
1998 vol.79	●新しいまちづくりの予感 ●東畑建築事務所創立65周年	●Concrete ●九州とわたし、そして建築	●東海支部会員作品 ●信州―諏訪とその周辺―	●街並みの演出―最近の外構材料	●生活環境の安全・安心	●地球環境保全と建築	●心と体を元気にするインテリア	●建築設備―ビルメンテナンスの立場から	●建築への証言'98―21世紀に向けて	●ゆれをとめる―たえる技術からかわす技術へ	●私の空間作法 ●2001年の医療施設	●第45回青年技術者 ●駅とともに歩んだJR西日本の12年
1999 vol.80	●“らしさ”のデザイン ●建築を綾どる小粋なモノの仕掛人	●大阪市都市整備局	●東海支部会員作品'99 ●北信濃―街並み修景と地域文化の再構築	●都市のパブリック	●関西建築界の流れと東畑謙三の足跡をたどる	●大阪城天守閣平成の大改修	●改正建築基準法―まちづくり・すまいづくりへの展開―	●私の目でみた環境問題	●アーバンインテリア―都市空間としてのインテリア	●木とともに	●私の空間作法	●第46回青年技術者
2000 vol.81	●21世紀のデザインの動向を見る ●安井建築設計事務所創業75周年	●中国支部―しまなみ海道と中国地方の街づくり―	●東海支部会員作品2000 ●越中・富山―地域文化の振興と新たな施設づくりの流れ	●こころを癒す環境デザイン	●測る―測定方法と測定結果が意味するもの―	●スケルトン&インフィル	●改正建築基準法―パートII―	●100年後へのメッセージ ●日建設計創業100周年	●来世紀に引き継ぐ―わざ、もの、こころ―	●時間	●私の空間作法―会員作品― ●21世紀の高齢者の居住環境	●第47回青年技術者
2001 vol.82	●エヌ・ティ・ティファシリティーズ	●21世紀の建築設計教育	●東海支部会員作品 ●岐阜・大垣	●ＩＴ社会におけるきずな	●自然素材をめぐる「もの・わざ・ひと」	●成熟社会をささえるまちづくり	●現代の日本の空間・文化を探る	●環境―近未来に向けて今できること― ●大建設計―作品特集1996~2001―	●建築の力 都市の力	●緊張 ●都市基盤整備公団関西支社	●私の空間作法―会員作品―	●第48回青年技術者 ●NHK大阪放送会館・大阪歴史博物館＊
2002 vol.83	●国土交通省近畿地方整備局営繕部＊	●再生・リサイクル	●東海支部会員作品 ●愛知・名古屋	●生活環境の安全・安心―パート2―	●塗装のいろいろ	●都市再生に向けた建築基準法集団規定のあり方	●いま、インテリアデザインは ●淡町リバープレイス	●建築をささえるセンター	●建築とボランティア	●時を超えて～サステナブルエンジニアリングの現在～	●私の空間作法―会員作品―	●第49回青年技術者 ●大阪市中央公会堂
2003 vol.84	●東畑建築事務所創立70周年	●九州の地域づくり・まちづくり	●東海支部会員作品2003 ●愛知・名古屋―この地の文化・芸術と建築・街づくりを考える―	●サスティナビリティ～次世代に引き継ぐ都市・建築・暮らしのデザイン～	●建築と五感	●都市計画法及び建築基準法等の改正	●コンバージョン―インテリアから発信するまちなみ―	●介護と建築・設備	●建築とノスタルジー～建築の主観的価値について～	●力と楽しくつき合う方法	●私の空間作法―会員作品―	●第50回青年技術者＋青年技術者顕彰50年

＊は欠号

建築と社会 08 2004
Architecture and Society
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

1917年創刊　第85集／通巻989号

今月の表紙

企画／高野直樹
企画と写真／伊藤　彰
表紙デザイン／恋田衣里

●涼しげな清流の音。大阪アメニティーパークの入り口近く、東天満公園の噴水です。正確には噴水は施設の敷地ですが、都市計画公園である東天満公園と一体化し、すばらしい公園となっています。もともと小さな三角公園が、今では水辺のある広い公園となり、近所の子供たちの格好の遊び場になっています。
今は夏休み。水遊びをする子供たちのはしゃぐ声が、聞こえてくるようです。
（高野直樹）

■特集予告
9月号／「建築家」とは何か
～建築家の職能と価値を考える～
10月号／巨大地震にそなえて
11月号／私の空間作法
12月号／第51回青年技術者

編集委員会（平成16年度）
■副会長　難波　尚
井上　豊　△肥嶋　好浩
中井　進　向井　洋一
■編集担当理事　安田　拓矢
上原　正行　山本　健二
岡田　聿之　□設備分科会
久我　三郎　△梶井　宏修
佐藤友美子　河井　康人
◎設築　真樹　河津　隆之
竹中　統一　近藤　国夫
立成　良三　近藤　正一
広原　盛明　多賀　浩三
堀田　修二　田ノ畑好幸
■特集小委員会　谷野　太志
□計画分科会　桝井　貴廣
★計画系　松浦　肇
飯田　匡　村上幸三郎
伊縫　憲幸　□施工材料分科会
鈴木　克彦　植田　実
田中　直人　竹中　秀文
高橋　和也　太刀川丈爾
辻　武之　（未定）
△紅谷　昇平　平田　茂良
松田奈緒子　平野　剛
三宅　次郎　△吉田　正友
森　康郎　□法令分科会
吉村　英祐　坂中　信隆
★建築計画系　鶴田　和幸
荒木　宏之　野村　彰
江副　敏史　溝上　省二
奥村　朋孝　△山口　一郎
菅野　忠司　山根　正利
木多　彩子　■作品作風小委員会
楠　敦士　赤木　隆
小林　優子　石塚なぎさ
△桜井　則雄　居内　章夫
笹村　欽也　井上　雅祐
静　茂夫　池上　明
所　千夏　川上比奈子
野田　隆史　倉渕奈千子
★インテリア・住宅系　澤田　純一
阿部　泰浩　寺岡　宏治
加藤　力　鞆野　淳司
黒柳　亮　○中村　文紀
高野　直樹　林　孝司
△田中　浩介　前川　治彦
戸井賢一郎　増田　敬彦
西田　和子　山田　俊紀
ペリー史子　■広告企画小委員会
本山　仁　荒木　俊明
□構造分科会　石塚　俊明
稲田　竜也　大竹　賢次
大氏　正嗣　斉藤　治久
大住　和正　竹内　健介
木下　隆嗣　前田　衛
白髪　誠一　横田　和生
田渕　勝道　○渡邊　浩文
永原　吉浩

◎委員長　○副委員長　△幹事

印　刷　2004年7月25日
発　行　2004年8月1日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
大阪市中央区大手前1-7-31
電　話　06-6946-6981
振替口座　00910-9-39975
印刷所　青葉印刷株式会社
（株）NPCコーポレーション
定　価　1200円〔税込〕

CONTENTS

特集●　**銭湯～心地よさを求めて～**

［総論］　入浴～風呂の変遷とその効果～●大塚吉則　14

［各論1］　入浴効果を生かす全体計画
スーパー銭湯～計画から運営・管理まで～●高橋圭一　16
銭湯・スーパー銭湯に最適なエネルギーシステム●山下弘樹　19

［各論2］　設備のディティールへの配慮
スーパー銭湯の照明計画●大見堅悟　21
住宅のお風呂の変遷●国府田人紀　23
水栓金具の変遷と特徴●荒木　修　24
サウナ「ミスト・ドライ」開発の歴史●山本博美　25
露天風呂、ヒーリングサウナ、漢方薬草サウナ●高橋圭一　26
銭湯とマッサージチェア●竹端秀海　27

［設計事例］　天然温泉 名湯「宝の湯」～計画段階から参加して～●木村公之　28

会告　若き創造者たちへ―第51回青年技術者特集号へのおさそい．私の空間作法作品募集．会員の受賞．本会事務所は6月にOMMビルへ移転しました．講演記録集「話のはなし」残部頒布します！ 茶室見学会㉑奈良の八窓庵―伝古田織部．〈モダン建築再見2004〉近代建築は関西がおもしろい　1

作品作風　市立池田病院増築棟　8

gallery　心地良い場所（北島庸行）●中村文紀　12

法令コーナー　風格と華やぎのある商店街の形成を目指して●和田豊志　30

構造の頁　蛍光ランプのリサイクルの現状●杉山謙二　31

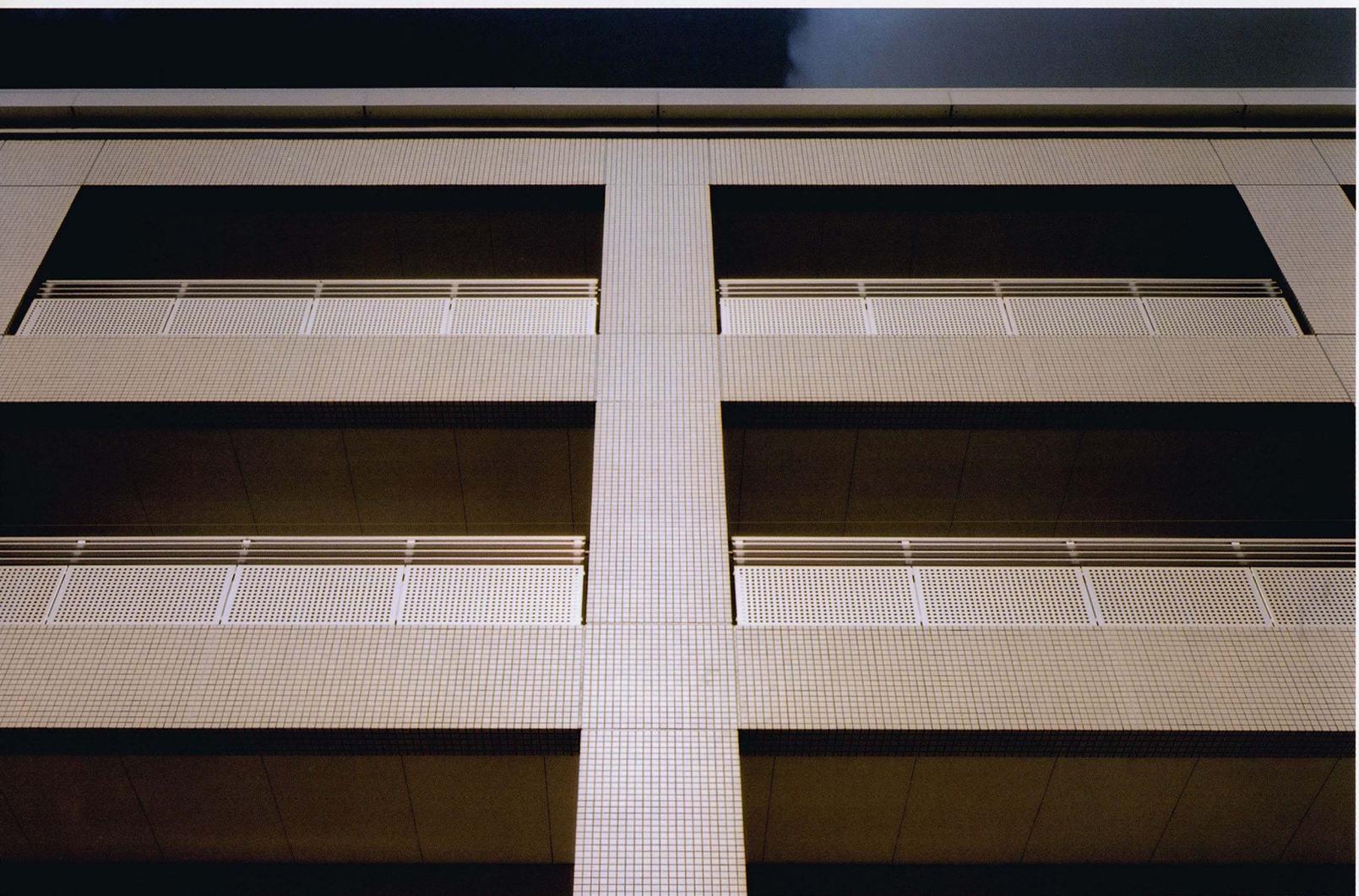
REPORT　井上まるみ氏講演会「プロが教えるキッチン設計のコツ」●山田　修　32

information　医療福祉建築賞2004募集．中部建築賞2004募集．第9回神戸市建築文化賞の推薦募集．フォーラム“木の文化で都市の再生は可能か”．建築鑑賞講座「煉瓦と建築」．真鍋博展．大阪芸術大学博物館所蔵作品展「アンリ・カルティエ＝ブレッソン」．特別展「祈りの道～吉野・熊野・高野の名宝～」．ゲニウスロキ2004展―音戸アートスケープ―．「風と建築」展　33

新刊紹介　『シックハウスがわかる』発刊　34

月間の動き　平成16年5・6月分　35





作品
作風

設計・監理■
安井建築設計事務所

施工■
建　築：竹中・戸田特定建設工事共同企業体
電　気：トーエネック
機　械：三晃空調
昇降機：日本オーチス・エレベータ
搬　送：日本シューター

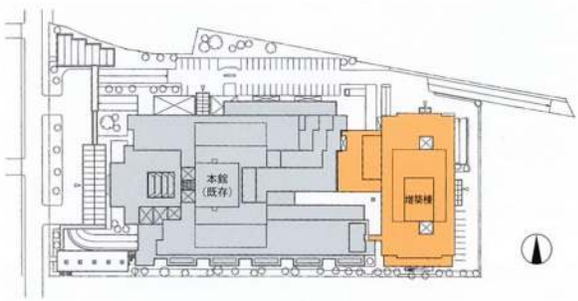
市立池田病院増築棟

市立池田病院は、平成９年、264床・15診療科目・延床面積約28,000㎡の規模で現在の地に移転新築された。しかし、開院まもなく病室は満床状態となり、救急患者も他病院へ転院せざるをえない状況が続き、市民病院としての役割を十分果たせないという課題を抱えていた。増築棟には、これらの状況を改善すべく、100床の増床や様々な部門の診療機能強化などの市民の願いが盛込まれている。

設計に当たってのメインテーマとして「安全かつ安心できる病院」を目標とした。まず、地球環境への配慮として、ノンフロン空調機やエコケーブルを採用、さらに省エネルギーへの配慮として、屋上緑化や節水型衛生器具を採用している。療養環境への配慮としては、五月山を中心とする池田の豊かな自然をモチーフとした直接手で触れることができるアートを各所に配置（アートセラピー）し、また屋上には、車いすのお子様も楽しむことができる遊具を設置（プレイセラピー）した。さらに、各階にオストメイト対応便所を、各病室にも個別便所を設置し患者様の利便性・早期離床に配慮した。病棟階の廊下は、２ヶ所の光庭や間接照明により明るく落ち着いた空間となり、単なる通路としての廊下ではなく、デイルームに加え患者様が病室以外に寛ぐことができる癒しの空間とした。

増築棟のオープンに続き現在既存棟の改築工事が進められており、これからもこの病院が地域の方々に信頼され安心を与える病院としてさらに発展していくことを期待している。

（後呂卓伸／安井建築設計事務所）



配置図

所 在 地 ――大阪府池田市城南3-1-18
敷地面積 ――17,907.13㎡
建築面積 ――2,727.11㎡
延床面積 ――10,708.21㎡
構造規模 ――SRC（一部S・RC）、B1F、4F、P1F
工　　期 ――2003年３月～2004年５月
最 寄 駅 ――阪急宝塚線・池田駅
撮　　影 ――清水向山／エスエス大阪







1
2
3
4
5

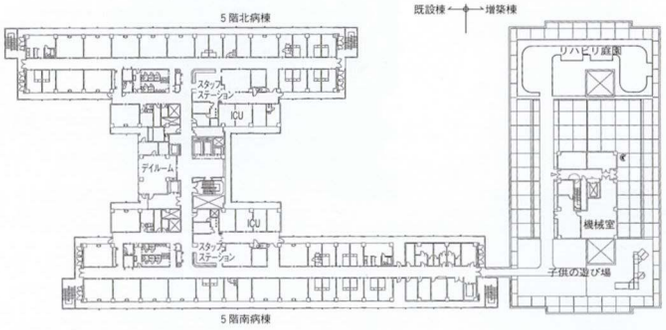
1．外観東面
2．外観ディティール
3．エントランス
4．病棟スタッフステーション
5．病棟廊下



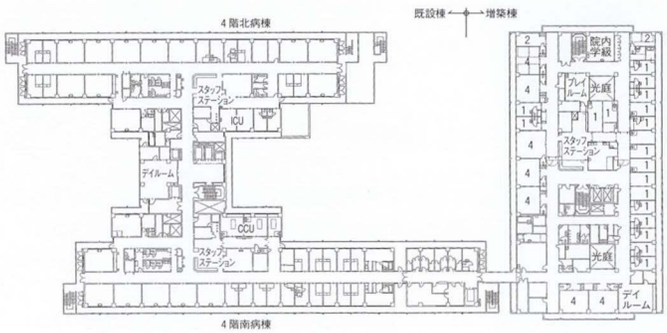




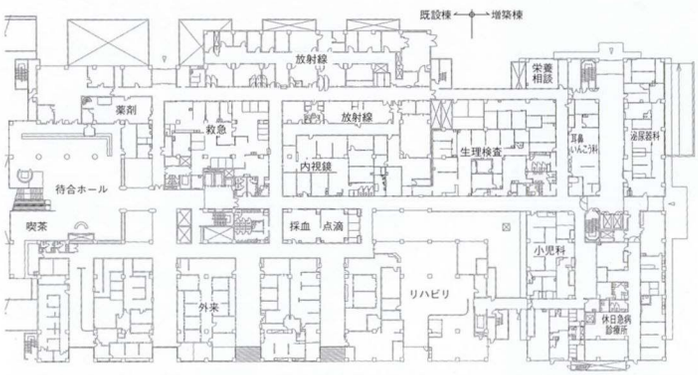




屋階平面



4階平面



1階平面　1：1600











6．“水”を象徴化したガラスオブジェクト
7．氷が水滴に変わる瞬間を造形した
　　ガラスオブジェクト
8．光を受けてかがやく水滴のような
　　ガラスオブジェクト
9．虹をモチーフとしたガラスオブジェクト

10．小児科病棟　光庭
11．小児科病棟　プレイルーム
12．屋上　子供の遊び場
13．小児科外来待合

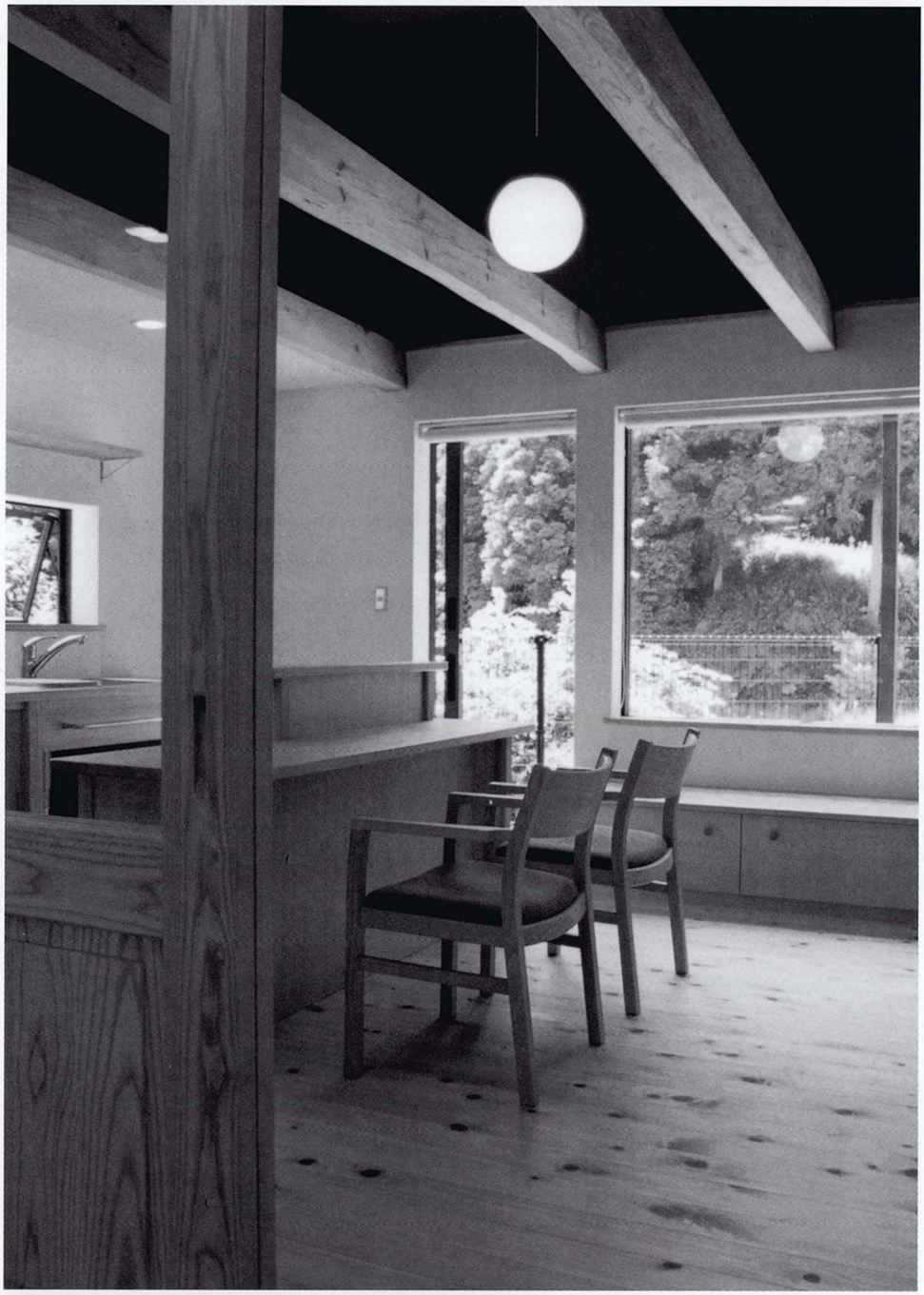


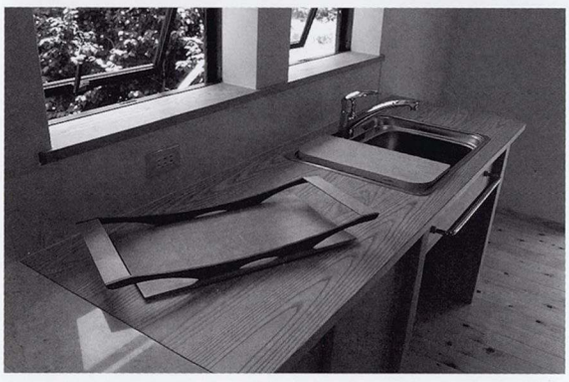
gallery

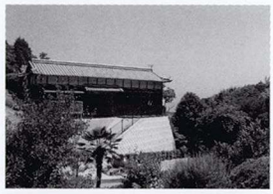
心地良い場所

木工デザイン
北島庸行

主に家具デザイン、製作を行っている私のところを訪ねて来られた婦人に建物の改装の依頼を受けた。淡路島の自然に包まれる里山の奥、島とは言え海など見えないひっそりとした町道の突き当たるところに建つ門長屋だ。
友人を招き季節を楽しみ、里山を下りて暮らしている子供達家族を迎え語らうゲストルームにする計画だが元は牛を飼い農機具小屋として使われていた築80年以上の建物である。時に応じ手を加えられ丁寧に使われてきた様子が伺える。
婦人の希望を良く聞いた上で、「必要な量だけの」新しい木を用い、機能的に使われる物を作ろうと考えた。それが使い込まれてきずが付き、汚れそして深みが出て、建物を支えている柱や梁の味に少しでも近付いて欲しいと願う。これは経年変化が好きで木を扱うようになった私の先への希望だが、その為には人がこの空間を心地良いと感じ、ここで多くの時間を過ごしてくれなければ期待できない事だ。
ここでは家具はやはり格好良さよりも目的に合った使い易さを優先した。壁の色や床材の質感は周囲の景色とも相談しながら吟味した。
家具を作る時部屋に調和する物が良いと思う。部屋を作るなら外との繋がりが大切だと思う。また小物などを作る時は触れる人に優しい物がいい。
自然とそれに触れ、自然とそこに座る、心地良さを求めてそこに人が集う。
難しいけれどそこに醍醐味がある。
工事終了間際まだ養生が残る夕暮れ時の現場、婦人は取付いたばかりのベンチに腰掛け、束の間のうたた寝をしたと聞き少々安心してこの計画を終えた。







北島庸行
1964　神戸市生まれ
1989　武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科卒業
1989　株式会社松山設計室入社
1991　ドイツ WARRINGS社に出向勤務
1996　木工家 早川謙之輔氏に師事
1997　アトリエKIKA開設
2001　淡路島に住居、工房を移転

企画編集　中村文紀(作品作風小委員会)

特集

銭湯～心地よさを求めて～

総論

入浴～風呂の変遷とその効果～●大塚吉則

各論 1

ー入浴効果を生かす全体計画ー

ス-パ-銭湯～計画から運営・管理まで～●高橋圭一

銭湯・ス-パ-銭湯に最適なエネルギーシステム●山下弘樹

各論 2

ー設備のディテールへの配慮ー

ス-パ-銭湯の照明計画●大見堅悟

住宅のお風呂の変遷●国府田人紀

水栓金具の変遷と特徴●荒木　修

サウナ「ミスト・ドライ」開発の歴史●山本博美

露天風呂、ヒーリングサウナ、漢方薬草サウナ●高橋圭一

銭湯とマッサージチェア●竹端秀海

設計事例

天然温泉　名湯「宝の湯」～計画段階から参加して～●木村公之

人々は心地よさを求めてスーパー銭湯へ行く。本特集では、その魅力と秘密をさぐりたい。その工夫を家庭風呂に持ち込むにはどうすればよいかを知りたい。

企画

梶井宏修／河井康人／近藤国夫／近藤正一／多賀浩三／田ノ畑好幸／谷野太志／桝井貴廣／松浦　肇／村上幸三郎

総論

入浴～風呂の変遷とその効果～

大塚吉則

お風呂の歴史

古くから人々の生活の中で、水は体の汚れを落として清潔にするばかりでなく、魂の穢れも清める働きがあり、神聖なものとしてとらえられてきた。祭事の前に行われる沐浴、祈願に際して身を清めるなど、現代でも禊、お祓いなどの儀式が行われている。

もともと、いわゆる風呂は、洞窟や石を積み重ねて作った空間（室）に入って行う蒸風呂・熱気浴であった。沸かしたお湯に浸かる習慣は宮中の御湯殿での天皇の入浴に見られるほか、仏教に関連した、光明皇后に始まる施浴の伝説、その伝説に基づく鎌倉時代の施浴が記録に載っている。銭湯の始まりも鎌倉・室町時代に遡るが、一般庶民が気軽に入浴を楽しむようになったのは江戸時代からである。火事、経費などの心配から、豪商の越後屋であっても内風呂を持っていなかった。また、風呂屋（蒸風呂）と湯屋（お湯に浸かる）とは明確に区別されていたが、風呂屋に湯浴の設備（当初は膝から下のみを浸す）が併設されるようになり、両者の区別が徐々になくなり、今日の風呂屋になった。

ところで天然に湧出している温泉への入浴は、神話などから神代の時代に遡ると思われるが、記録に残っているのは神功皇后が韓国遠征の傷病兵を嬉野温泉で療養させたという史実である。その後、奈良時代からは「神湯」として温泉が病気の治療に使われ始めており、古くから経験的に温泉の効能が知られていた。江戸時代には「湯治」として温泉が広く利用され、特に農村では「正月の湯」「寒の湯」「田植え前の湯」「野上がりの湯」「一番草後の泥落としの湯」「取り入れ前の湯」「刈り入れ後の湯」「秋湯治」などと呼ばれる温泉入浴の習慣が存在した。農作業による心身の疲労を癒すばかりでなく、次の仕事への体力づくりも兼ねた、現在では「温泉保養地療法」と呼ばれているものを実践していた。

入浴の人体へ与える影響

■物理的因子

静水圧　水中では水深が１ｍ増すごとに76mmHgずつ水圧（静水圧）が増加する。立位で首まで浸かると、ふくらはぎの周囲では１～1.5cm、腹囲は３～５cm、胸囲は２～３cm程度細くなる。また皮膚表面の静脈及び肝臓などが圧迫されて、心臓への静脈還流が増加するため心臓が肥大してくる。さらには横隔膜が押し上げられて呼吸しづらくなる。したがって心臓や肺に疾患のある人は全身浴を避けるべきである。一方、横隔膜の高さまでの半身浴は仰臥位で寝た時と静脈還流量は同程度であり、それほど心臓に負担をかけずにすむ。

浮力　水面から頭だけを出している状態で、体重はおよそ９から10分の１になり、水位が胸の高さでは３分の１ぐらいになる。この浮力によるリラックス効果は、寝湯、浮遊浴でさらに高まる。

温熱

（１）水温による分類と血圧、脈拍、体温に与える影響

入浴は水温によって冷水浴（24℃以下）、低温浴（25～34℃）、不感温度浴（35～36℃）、微温浴（37～39℃）、温浴（40～41℃）、高温浴（42℃以上）に分類される。不感温度とはその水温では熱くも冷たくも感じず、血圧や心拍数などの生理機能の変化がほとんど認められない温度をいう。42℃以上の高温浴は交感神経を緊張させる作用がある。高温浴は精神的にも肉体的にも活動的な状態を作り出す。10分間42℃の湯に浸かると、血圧は入浴直後から上昇し始めて20～40mmHg程度増加する。これは血管が収縮して、急に血圧を上げてしまうためである。脈拍は40拍ほど、体温も２℃程度上昇する。したがって、高血圧症、動脈硬化症の患者や高齢者ではこのような高温浴は避けるべきである。ところが37～39℃程度のぬるめの微温浴は、副交感神経系を刺激するため、精神的にリラックスした状態になる。寝起きの悪い人は熱いシャワーを、精神的なストレスから解放されたい時や、就寝前にはぬるめのお湯にゆったりと浸かると効果的である。

（２）水温と血液粘度

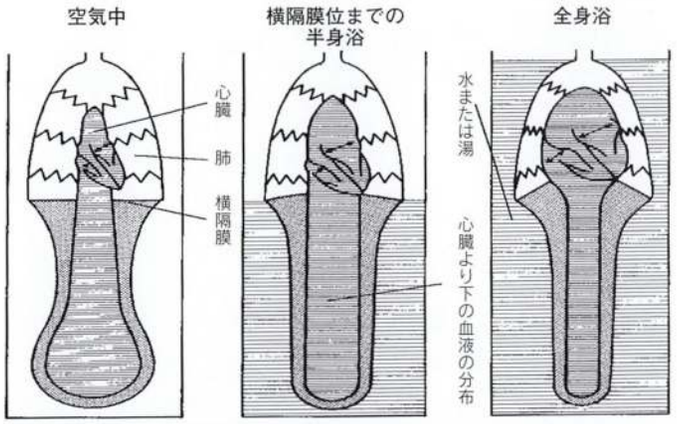
42℃での全身浴では血液粘度が上昇して血液は固まりやすくなる。38℃の微温浴では血液粘度はむしろ低下し、42℃でも半身浴では粘度の上昇は極軽度になる。粘度の上昇は発汗による脱水が原因でおこるので、入浴前後に十分量の水分を摂取するようにする。

■薬理・化学的因子（温泉入浴の場合）

温泉には、法律で定められた規定の成分を含んでいないが泉源で水温が25℃以上ある単純泉と、規定の成分を含み泉質名のある温泉とが存在する。以下に療養泉として定義されている温泉の中から、代表的な泉質について概説する。

単純泉　日本では最も多い泉質で、成分が一定の基準値に達していないため身体に与える刺激が少なく、利用範囲が広い万人向きの温泉である。病後、外科手術後などの回復期、静養に適する。「中風の湯」「神経痛の湯」などとして知られている。

塩化物泉　単純泉に次いで日本に多い泉質である。入浴後、皮膚表面の蛋白や脂肪と塩分が錯塩を形成して皮膚を皮膜状に覆うため汗の蒸発を防ぎ、保温効果がよく「熱の湯」と呼ばれている。したがって浴後に水道水のシャワーなどを浴びない方がよい。このことは他の泉質にも当てはまり、皮膚が弱くて温泉に負ける人を除き、上がり湯に水道水のシャワーは使わない方がよい。この泉質は適応範囲が広く、特に塩分濃度が低い弱食塩泉は緩和性の温泉で、高齢



空気中に立っている状態では、重力のために血液は下半身により多く分布している。身体の水中部分に静水圧が加わると、その部分に分布していた血液が圧迫されて心臓に向かい、心臓の容積が増えてくる。

者に適し、病後の回復にもよい適応である。

炭酸水素塩泉　ナトリウム炭酸水素塩泉（重曹泉）は、いわゆる「美人の湯」「美肌の湯」と呼ばれているものに相当する。アルカリ性のため皮膚表面の脂肪分や分泌物が乳化して洗い流され、肌がすべすべしてくる。皮膚が清浄化されて、表面からの水分の蒸散が盛んになるため、体温が発散され、清涼感、冷感を覚えるので「冷の湯」とも呼ばれる。皮膚が軟化するために皮膚病、火傷、創傷の治療に用いられる。

硫黄泉　温泉地特有の臭いですぐにわかるが、末梢血管の拡張作用が強く、動脈硬化症、高血圧、心臓病に適する。また、硫黄の解毒作用により金属中毒、薬物中毒にも用いられている。関節リウマチ、慢性の湿疹にも適応があるが、硫化水素（H_2S）ガスは去痰作用があり、慢性気管支炎、気管支拡張症などに有効で、「痰の湯」とも呼ばれている。ただし、一定濃度以上のH_2Sガスは有毒であり、換気を十分に行うなど注意が必要である。

二酸化炭素泉（炭酸泉）　末梢血管拡張作用を有するので、血圧低下作用があり、高血圧、心臓病などに適応する。ヨーロッパでは「心臓の湯」と呼ばれている。血行が良くなるので更年期障害、また関節リウマチにも用いられる。

そのほか、降圧効果のある硫酸塩泉、殺菌作用が強い酸性泉、「痛風の湯」とよばれる放射能泉などもある。

このように泉質によりその適応症が規定されてくるわけだが、温泉の効果は温泉地の地勢、気候、利用者の生活状態の変化など、いろいろな因子が絡んでくるので、温泉の成分のみではその効用を決定することは困難である。

入浴剤の作用

市販の「○○の湯」「湯の花」はお湯に溶かしても実際の温泉水とは根本的に異なっており、本物の温泉水にはならない。入浴剤を楽しむ基本は色と香りであり、気分的にリラックスした状態になれれば使用した目的がなかば達せられる。日本には昔から端午の節句の菖蒲湯、冬至の柚子湯など季節の植物をお風呂に入れて楽しむ習慣がある。柚子の皮に含まれている精油（エッセンシャルオイル）には血行をよくする働きがあり、身体が芯から温まる。また、菖蒲の根は疲労回復、冷え性に効果があるともいわれている。そのほかヨモギ、ナンテン、マツ、モモ、ニンジン、ダイコンの葉、ミカン、レモンの皮、セロリ、ミツバ、シソなどの野菜もよい香りがする。このような習慣は日本だけではなくヨーロッパでも古くからハーバルバスとして親しまれてきた。ラベンダー、ローズマリー、ペパーミントなどがその代表的なものである。ラベンダー風呂の実験では、副交感神経系が優位になり、脳波のα波（精神的なリラックスの程度を反映する）の出現割合が増加し、リラックス効果があると考えられた。

さて、合成入浴剤に含まれている硫酸ナトリウム（芒硝）は傷を癒し、血流量を増やし、血圧を下げる作用がある。また硫酸マグネシウムにも降圧作用が実験的に確かめられている。しかしながら入浴剤の効果は1回入浴によるものもあるが、特に降圧作用などでは、繰り返し入浴することが大切である。また、いわゆる肩凝り、冷え性、手足の痺れ感、むくみなどの症状を軽減させる目的で入浴剤を使用するときも、できれば毎日入浴するように努めた方がよい。

小さなお風呂より大きなお風呂

私たちは温泉に行って広い湯船に浸かると、心身ともにのびのびとした気分になり、とてもリラックスできる。これは家庭の狭い湯船に手足を曲げながらきつい思いをして入浴している時には、いくら温泉の元などを使用しても味わえない。大きなお風呂やジャグジー付きの大きなお風呂に入ると、α波の脳波全体に占める割合が増加し、出浴後もこの状態が続く。小さなお風呂に入ってもα波の割合は変化しない。また、サーモグラフィーでの検討では大きなお風呂が一番湯冷めしにくいことも確認されており、やはり大きなお風呂の効果は間違いないようである。

最近、本物の温泉を求める声が高まり、温泉はかけ流しで、薄めない、沸かさない、循環・消毒しないのが本物であり、それ以外は温泉でない、入浴しても何ら効果がない、という風潮がある。確かに理想の温泉はかけ流しの天然温泉であるが、温泉資源の保護、病原菌の除去などで循環している温泉施設もたくさんある。このような温泉も前述のように、大きなお風呂に入るメリットがあり、決して効果がない訳ではない。ある浴場組合のキャッチフレーズに「遠くの温泉よりも近くの銭湯」というのがある。大きな湯船での入浴は家庭での小さなお風呂では得ることのできない効果があり、まさしく銭湯の魅力となっている。

参考書

1）大場修著、山田幸一監修、物語、ものの建築史、風呂のはなし、鹿島出版会、1990年

2）大塚吉則、温泉療法ー癒しへのアプローチー、南山堂、1999年

（おおつか　よしのり　北海道大学保健管理センター助教授、医学博士）

スーパー銭湯～計画から運営・管理まで～

高橋圭一

スーパー銭湯発祥の地は大阪か富山と言われているが、現在に至る「温浴ブーム」の先駆けは、10年ほど前の東海地方でのスーパー銭湯ブームにあると考えられる。当時のスーパー銭湯と言えば外観はほとんどが洋風で、接客サービスの概念もあまりなかった。施設の設計も「いかに早くお客様を来店させ、いかに早く退店させるか」に主眼が置かれていた。ところが5年ほど前から、「癒される施設」であるためにデザインは和風中心となっていった。また顧客満足度を高めるための様々なサービス、および従業員の接客態度も飛躍的に向上していき、設計趣旨も、「いかにお客様にくつろいでいただけるか」になった。

現在のスーパー銭湯は、客数だけではなく客単価も以前では考えられなかったような施設が誕生しており、初期のスーパー銭湯とはまったく別物と言ってもいいくらい変化している。

スーパー銭湯を設計する上で最も大切なことは、「非日常感の演出」であると考える。関西地方（特に大阪府）は全国でも内風呂普及率の低い地域ではあるが、それでも最近では風呂なしアパートはほとんど見かけなくなった。このような状況においても、家庭の「お風呂」ではなく「スーパー銭湯」に足を運ぶ人々がいる。理由は、「日常の中の非日常感」を満喫したいためなのである。

スーパー銭湯の立地条件

・車で15分圏内に、8万人以上の人口があれば理想的。
・市街化区域内であれば、建設可能。
・目的来店性が高いため、必ずしも幹線道路に面する必要はない。
・建物規模は、400～600坪が標準。
・敷地面積は、100～150台程度の駐車場を必要とするので、市街地で1,000坪以上、郊外では1,500坪以上が理想的である。

建物は、平屋で平面駐車場が理想的であるが、敷地面積が小さい場合は、駐車場確保のため、建物は2階あるいは3階建てになる。また、構造についてはほとんどが鉄骨造である。

配置計画

スーパー銭湯の中で最も「非日常」を感じることができる場所は、言うまでもなく「露天風呂」である。さらに、気持ちのいい露天風呂の要素には、「広い」「開放感がある」「景色がいい」といったことが挙げられるが、立地の状況によっては、これらの条件を満たすことが困難な場合も数多くある。そのような場合でも、なるべく条件を満たすために、配置計画をする場合は、まず露天風呂の位置をどこに配置し、どの方角の景色を見せたいかを決定する。もし近隣に高層建築物がある場合は、「最も覗かれにくい場所」に配置する。これは、露天風呂の塀をなるべく低くすることによって、なるべく開放感をもたせるためである。

露天風呂の位置がきまったところで、建物と駐車場の位置の検討に入る。敷地形状や前面道路の状況に大きく左右されるが、共通して言えることは、玄関はなるべく敷地の中心部に配置することである。理由は簡単で、お客様に長い距離を歩かせないためである。また、駐車場の台数は1台でも多く確保したいところであるが、「非日常感の演出」のために建物周りにはできる限り植栽スペースを設けることも忘れてはいけない。

平面計画

平面計画をする際に最も重要なことは、「施設の収容人員を何人に設定するか」に尽きる。収容人員によって駐車場の台数、建物の規模（延床面積）、設備（特に給排水・ろ過機）の能力、さらに下足ロッカー数、飲食席数、脱衣ロッカー数、洗い場の数まで、ほぼ決定される。というのも、これらの数は一定のバランスの上に成り立っているからである。逆にこれらのバランスの悪い施設は、どこかに無駄があるということにもなる。スーパー銭湯の集客予想は他の商業施設と比較すると、解明できていない要素が多いため非常に難しいが、この設定を間違えると「ムダに大きな施設」または「せっかく来たお客様を逃す施設」になってしまう。

門、アプローチ・玄関　一般的にスーパー銭湯の場合、駐車場までは日常的な空間であるが、ここからは「非日常的な空間」になるため、特に演出に力を入れる部分になる。


ポーチ

ロビー　健康増進法の施行もあり、愛煙家にはますます肩身の狭い状況になっているが、スーパー銭湯も例外ではない。特に風呂上がりの女性の髪は匂いを吸収しやすいため、分煙の配慮が必要である。最近では、ほとんど


ロビー



の施設に喫煙室が設置されている。

理容美容、マッサージ、アカすり　売上を高めるため、お客様の動線上に配置する。スーパー銭湯の売上の柱は３つあり、入浴料と飲食とこれら付帯施設の売上である。どこに配置するかで売上が大きく変わるので、注意が必要である。

理容美容　　マッサージ





飲食、座敷　こちらも売上を上げるためにお客様の動線上に配置するが、一方で、落ち着いた雰囲気で食事をしていただくために、通過するお客様の視線と食事をしているお客様の視線が合わないように、空間を設計する必要がある。

脱衣室　着替えるためだけではなく、休憩するためのスペースが必要である。露天風呂に面するように配置すると開放感の演出が容易になる。また、ドライヤーの発熱量が非常に大きいため、空調計画には注意が必要である。



脱衣室

内風呂　サウナと水風呂は近接させること、洗い場はなるべく浴槽から見えにくくすること等、いくつかポイントはあるが、直接肌が触れる部分が多いため、非常に細かい所まで気を配る必要がある。またケガをしないよう、滑りにくい素材の採用や突起部分は作らないということも、気持ちのいいお風呂を設計する上で極めて重要である。また少しでも換気性能が悪いとすぐにカビが発生するので、こちらにも注意が必要である。

露天風呂（p26参照）



内風呂

動線計画

お客様と従業員の動線を分ける点では、他の商業施設と同様である。ただし、スーパー銭湯にはもう一つ離さなければいけない動線がある。ほとんどのスーパー銭湯は浴室の清掃を外部業者に委託（オープン前の朝が一般的）しており、この動線も他の動線となるべくクロスしないことが望ましい。

増設を考慮した計画を

温浴は施設産業ゆえ、どうしても新しい施設が有利となる。将来、近隣にライバル店が出店することも想定して、ロビー（座敷）や露天風呂は増築できるスペースをあらかじめ確保しておくことも重要である。ドライ部分はともかく、ウエット部分の改築は困難で費用もかかるため、増築によって集客力の回復を図ることも想定しておくことが理想的である。

スーパー銭湯の営業許可

公衆浴場の営業許可は管轄の保健所から受けるが、営業許可の種類には「一般公衆浴場」と「その他の公衆浴場」の２種類がある。

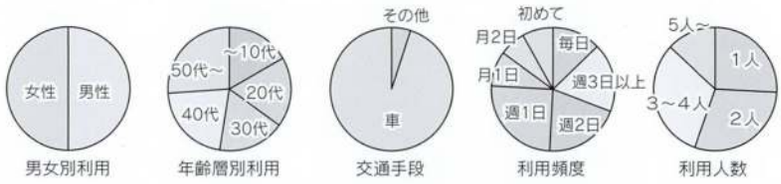
一般公衆浴場／物価統制令によって入浴料金が定められているもの。いわゆる昔ながらの銭湯で、大阪府では大人の入浴料金は360円（平成16年８月）となっている。

その他の公衆浴場／一般公衆浴場以外の公衆浴場で、スーパー銭湯・健康ランドから風営法関係のものまで、すべて含まれる。

関西では「一般公衆浴場」の営業許可で運営されているスーパー銭湯が多く見られるが、全国的には「その他の公衆浴場」によるものがほとんどである。その大きな理由は、関西（特に大阪府）では地下水の確保が困難なためである（一般公衆浴場で営業許可を受けると、上下水道料金および固定資産税で減免措置が適用される）。

運営形態

スーパー銭湯の運営形態には「銭湯型」（再入浴不可。脱衣室の手前に番台があるシステム）と「日帰り型」（再入浴可。入館料システムで番台は玄関前）がある。以前は「銭湯型」が多かったが、最近では駐車場がよほど狭くない限りは「日帰り型」が採用されて



スーパー銭湯利用客データ

いる。スーパー銭湯の数が増え競争が激しくなってきたこと、また、お客様に「ゆったりした気分」を味わっていただくと同時に、飲食等でなるべく客単価を高めたいことが主な理由である。

レジオネラ症

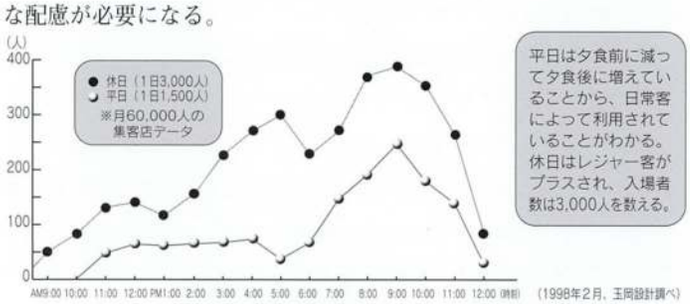
平成14年の宮崎県日向市での集団感染事故以来、「レジオネラ症」の危険性がクローズアップされている。レジオネラ症とは、レジオネラ属菌を含む目に見えないほど細かな水滴（エアロゾル）を吸い込むことによって感染する病気である。発病し「レジオネラ肺炎」になった場合、処置が遅くなると死に至る場合もある。また発病者のほとんどが高齢者という特徴がある。

感染事故を引き起こす原因は様々だが、死亡事故を起こした施設では、衛生管理が極めて杜撰であった。基本的には、マニュアルに従って施設を運営していれば、感染事故が起こる可能性はほとんどない。ただ、最近ではより安全を考慮して、浴槽・循環ろ過システム・水質管理方法（殺菌方法）に様々な工夫が盛り込まれている。

余談になるが、「エアロゾルを発生させる」との理由で新築物件では「打たせ湯」はほとんど設置されなくなった。

運営と管理

スーパー銭湯を運営する上でもっとも大きな問題の一つに「時間帯ごとの客数の変動が激しい」ことがある。具体的には、客数に応じてパート・アルバイトのシフトを組まなければならないが、夜間にお客様が集中するため、人の確保は容易ではない。お湯（水質）の管理も、客数によって給排水設備や塩素殺菌の設定が変わってくるので、清潔かつ塩素臭のしないお風呂にするためには、きめ細かな配慮が必要になる。



スーパー銭湯の時間当たり入場者数

もう一つ欠かせない要素に「清潔感」がある。体をきれいにするための施設であるから、清掃が行き届いていなければ、当然のことながらお客様の足は遠のく。通常、スーパー銭湯の集客数を長期的に見た場合、オープン時からお客様の数は増え、２～３年後にピークを迎える。その後は施設の老朽化とともに客数も減少していくが、急激に客数が落ち込む施設と、そうでない施設がある。原因は「施設の清掃状況」と「接客サービスの程度」の二つにあると考えて、ほぼ間違いはない。

運営上の苦労話

どこの店にも共通する話として、「汚物」の問題がある。小さな子供がほとんどであるが、なかには同業者による嫌がらせもあるようだ。対策の取りようもないが、この場合はすぐにお湯を抜いて、「これでもか！」というぐらいお客様の目の前で掃除をする必要がある。また、設備もこのような事態を想定しておかないと、浴槽に湯がなかなか貯まらないということになる。

イレズミをした客には毅然とした態度で入店をお断りしなければならない。曖昧にすると、そのうちお風呂が「イレズミだらけ」になってしまうこともある。勇気を持って対処する必要がある。

天然温泉を備えたスーパー銭湯が相次ぐ

天然温泉を掘削するスーパー銭湯の出店が相次いでいる。５年前には、スーパー銭湯で天然温泉を利用することはほとんど考えられなかったが、最近オープンしたスーパー銭湯の２件に１件は天然温泉を備える状況になっている。競争が激化しているので、他店との「差別化」を図るために導入されているのが、その理由である。なかには、「これからの温浴施設の方向性」を考えた上で、「本物の癒し」を求め、あるいは高齢化社会に対応すべく「予防医学的な要素」を取り込むために、温泉掘削を検討する運営者もいる。また、ランニングコストはかかるが、「本物」を追求した結果、「源泉かけ流し」（循環ろ過システムを使わない浴槽）を採用する店も、ここ１～２年で見られるようになった。

地域に密着したスーパー銭湯

幹線立地ではないスーパー銭湯の場合、オープン時の宣伝広告は非常に重要であるが、他の商業施設以上に「口コミ」には気を使わなければならない。温浴事業は地域に密着した事業で、近隣関係が芳しくない店は例外なく流行っていない。逆に一度足を運んでいただいた時に、「女将が三つ指立ててお出迎え」とはいかないが、「本当にこの施設を○○○円で使ってもいいの？」と思わせることができれば、その後の口コミによる宣伝効果には目を見張るものがある。

スーパー銭湯の場合、全体の75%は週に１回以上来店する常連のお客様で占められる。なかには「ヌシ」のようなお客様もいて、その中にはマナーの悪いお客様に対して従業員にかわって注意して下さる方もいる。お店にとっては本当にありがたいお客様である。

（たかはし　けいいち　株式会社玉岡設計営業開発室リーダー）

銭湯・スーパー銭湯に最適なエネルギーシステム

山下弘樹

銭湯の現状と設備ニーズ

近年、銭湯は従来の公衆衛生を目的とした浴場施設から、日帰りリゾート感覚で利用できるレジャー施設への脱皮を図ろうとしている。従来型の銭湯に加え、特に規模の大きいスーパー銭湯業態の施設が増加している。

そのようななか、経営を行う上では、運営コストダウン・他施設との差別化・付加価値向上による集客力アップ等を図ることが求められており、また、エネルギー多消費施設ならではの地球環境保全に向けた省エネルギー、労働環境の改善、周辺環境への配慮などの課題にも直面している。

このような背景から、銭湯・スーパー銭湯等の浴場施設における最近のオーナーの設備に関するニーズとしては、

1）クリーンで省エネルギーなシステムである
2）管理の手間のかからない設備である（労働環境の改善）
3）省スペースが図れる
4）低ランニングコストなシステムである
5）多種多様な風呂設備の充実による差別化
6）飲食スペースの充実による差別化

などの声が聞こえる。このようなニーズに答えるべく、大阪ガスでは「美・癒し・健康」をテーマに、天然ガスならではの環境に優しく、ランニングコストの安価で、施設の付加価値アップにつながるエネルギーシステムの提案を行うことにより、様々な銭湯・スーパー銭湯オーナーより喜んでいただいている。

クリーンな天然ガスによるエネルギーシステム

低公害でコンパクトな、ガスボイラーを中心としたガスシステムの特徴は下記のとおりである。

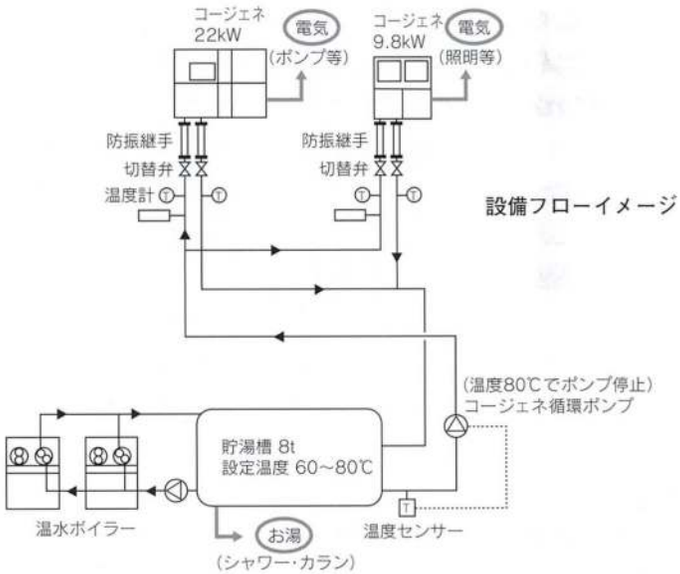
1）環境に優しいクリーンな燃料である天然ガスの利用
2）天然ガスによる自動運転で、重労働からの解放
3）取扱資格が不要で、省力化に寄与（パートタイマーでも管理が可能なシステム）
4）機械室のコンパクト化で創スペース可能
5）省力化により、サービスの向上及び集客力のアップ
6）コージェネレーションによる電気代削減・排熱利用
7）炭酸湯を発生するガスボイラー（コンデック）で付加価値向上
8）ガス空調の導入による省電力

銭湯とガスコージェネレーションシステム

銭湯・スーパー銭湯では、浴室にあるジェットバスや気泡湯などのポンプ類や、照明が多く使われ、建物の電気の消費量が大きい。また、長い営業時間で、給湯負荷も大きい。電気・給湯需要ともに大きい浴場施設において、快適な環境をお客様へ提供しながら電気使用量・給湯エネルギー使用量を抑制するエネルギーシステムとして、小型のガスコージェネレーションシステム（ジェネライト）が注目されている。

ジェネライトはガスエンジンを用いて発電を行い、同時に発生する排熱を熱として回収し、省エネルギー・省コストを実現するシステムである。通常の火力発電では、エネルギー利用効率は約40%程度であるが、ジェネライトでは、発電電力と排熱を有効利用することにより、80%以上となる省エネルギーシステムである。

スーパー銭湯においては、22kWタイプの2～3台複数台設置が主流となっている。



設備フローイメージ

すでにジェネライトは、関西で累積設置台数1000台を突破し、関西のスーパー銭湯の半数以上で導入され（大阪ガス調べ）、温浴施設でトータルエネルギーコストダウンを図れる設備として実績がある。また、近年、地球環境保全に向けた省エネルギー・CO_2排出量削減対策としても、ガスコージェネレーションシステムは、国から新エネルギーとして位置付けられており、各種補助金制度も充実しており、一層の普及が期待されている。

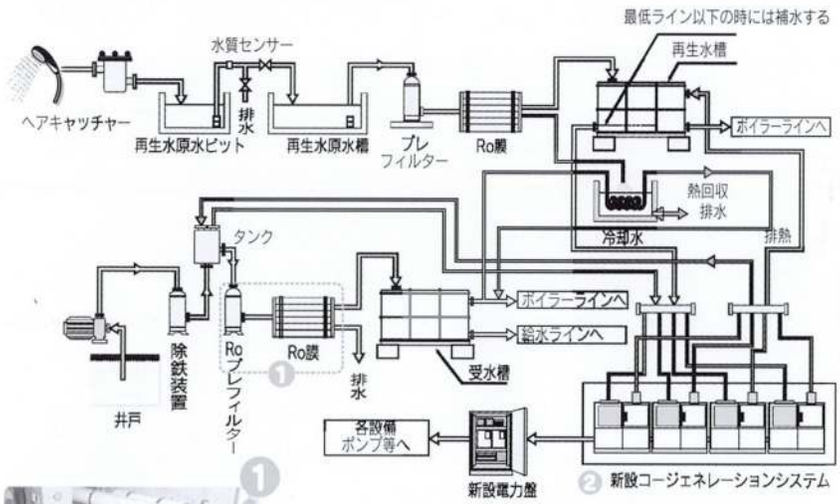
さらに、最近では集客力アップ及び水道代の節約を目的に、井水の掘削を行い、天然温泉（冷泉）を利用する施設も増加している。井水の上水化、または水のリサイクルを行う場合、RO膜を利用した水処理装置を設置する場合が多いが、システムの核となるRO膜は、水温が上がるとRO膜の透過能力が上がるため、コージェネ排熱による余熱を利用した組み合わせで採用されるケースが増えている。

ガスコージェネレーションシステム関連補助金制度一覧

【新エネルギー事業者支援対策事業】 新エネルギー導入事業者へ助成
【地域新エネルギー導入促進事業】 地域における太陽光発電、風力発電、燃料電池、天然ガスコージェネ、新エネルギー推進自治体等の事業への助成
【エネルギー使用合理化事業支援事業】 既設工場、事業所等における省エネルギー設備、技術の導入に対する助成
【住宅・建築物高効率エネルギーシステム導入促進事業】 住宅・建築物高効率エネルギーシステムの住宅・建築物への導入に対する支援
【高効率給湯器導入支援事業（ガスエンジン給湯器導入促進事業）】 給湯分野のさらなる省エネルギーに資するガスエンジン給湯器の導入に対する助成
【エネルギー多消費型設備天然ガス化推進事業】 CO_2削減に資するため石炭・石油等の燃料を使用する工業炉・ボイラー・自家発電設備等の天然ガス導入に対する助成

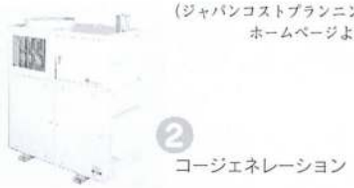


コンデック内部構造



（ジャパンコストプランニング ホームページより）





井水水処理システムでのコージェネとの組み合わせイメージ

付加価値を生み出す天然ガスならではのシステム

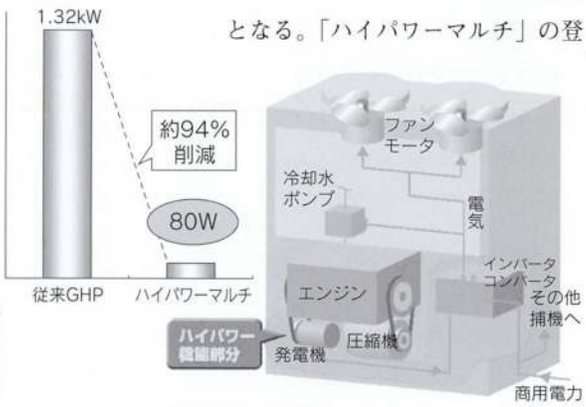
銭湯オーナーに好評なガスシステムとしては、前述の「コンデック」がある。

「コンデック」は、特殊ボイラーの中でガスの炎と水が直接触れ合うことにより、炭酸ガスを含んだ給湯が可能なガスボイラーであり、炭酸湯の保温効果や血行促進効果が高い。コンデックはクリーンな天然ガスならではの商品である。潜熱も利用するコンデンシング方式で、効率も高く、エネルギー効率はほぼ100%である。すでに全国の浴場施設で1000台以上の実績があり、癒しの時代を先取りした形でヒット商品となっている。

銭湯と省電力空調

浴場施設に求められる空調設備として、発電機能付きのガスヒーポン「ハイパワーマルチ」をご紹介する。

「ハイパワーマルチ」は、電力負荷平準化・夏場のデマンドカットに寄与する空調機としてすでに実績の多いガスヒーポンをベースに、室外機内に小型発電機を搭載し、さらに室外機の消費電力の大幅削減を実現したシステムである。同等クラスのＥＨＰに比べ、１／200の消費電力となる。「ハイパワーマルチ」の登場により、ガス空調の貢献度は一層高まると言える。



ハイパワーマルチ

エネルギー自由化の中で

環境貢献・省エネルギーのニーズが高まるなかで、銭湯におけるエネルギーシステムは、従来の油燃料中心のシステムから天然ガス利用のエネルギーシステムへ移行し、普及が進んできた。この秋には、発電効率同クラス世界最高の33%を突破したジェネライト25kWタイプ（ヤンマーエネルギーシステム株式会社ー大阪ガス共同開発品）も発売する予定であり、さらに普及が進むものと思われる。

今後は、エネルギー自由化の中で、さらにお客様のニーズを捉えた省エネ・省コストを実現する最適なエネルギーシステムの開発・提案を進めていきたい。

（やました　ひろき　大阪ガス株式会社エネルギー事業部エネルギー開発部）

スーパー銭湯の照明計画

大見堅悟

確かひと昔前までは、どの町にもあの高い煙突を持った銭湯のひとつやふたつはあったような気がするが、いつのまにか、その存在すら忘れ去られてしまいそうである。ただ、あの大きな浴槽と壁タイルに描かれた富士山の絵は奇妙に記憶に残っている。

そして最近では、都市近郊において「銭湯」が姿を変えて「スーパー銭湯」という名で復活している。そこは従来の大衆浴場より、むしろアミューズメント施設を思わせるような趣がある。様々な効能のある大小のスパ、飲食休憩のためのテーブルや畳敷きなどの大きなスペース、エステや理髪店まで完備したもの…と、「入浴」する行為を中心に老若男女をもてなす機能が充実している。そこで照明設備に求められるのは、人工の照明光の中でお客さまが楽しく安全に「入浴」することができることであり、また、運営する立場の方にも満足していただける「照明計画」を提案することが必要となる。

現在では、様々な商業施設において、照明デザインを重要視した店舗が増えてきており、ひと昔前の、目立つよう商品を明るく照らし出していれば良いという考えから、内装空間とのコラボレートによって商品を魅力的により良く見せるという、光によるコントロールが求められるようになってきた。

スーパー銭湯のアプローチ

日本各地にはスーパー銭湯と呼ばれる施設が約400店舗あるといわれる。これらの店舗は、特にお客さまの利用時間帯で多いのは夕刻から夜間までということになり、必然的に建築外観をライトアップする演出が必要とされる。しかしながら、昼間とは違った印象を演出する行為は、お客さまに良い意味での期待感をつくりだすことができるが、近年、過剰な建築のライトアップ行為そのものが「光害（ひかりがい）」と呼ばれ、近隣住宅への光漏れ、農作物や野生生物など生態系への悪影響、または電気の消費エネルギーなどの深刻な問題として取り上げられることがある。

これらの問題も考慮し、建築への安易なライトアップ行為は避け、建築そのものの存在感を引き立てるようなライティングが重要である。ライトアップする際に注意すべき点は、光源を選択するときに、建築の持つ雰囲気を十分理解することである。例えば、建築ディテールの象徴となるものに対しては何らかのライトアップは欠かせない。また、光色も建築の素材や色調が極端に変化して見えてしまうものも避けるべきであろう。思慮なしのライトアップは時として「お化け屋敷」にしか見えない場合があるので、お客さまを迎え入れる雰囲気を壊さない程度の奥ゆかしさが必要であると考える。

アプローチ　屋外から店内の導入部へ、照明演出による雰囲気づくりが必要な場合がある。例えば、和風デザインのアプローチなどには、足元照明としての行灯などを設置し、竹林などの植栽などには陰影を強調させるようなライトアップが必要とされる。ただし演出的な照明とは別に、十分に歩行できる照度の確保のために、照明器具の配置について注意する必要がある。外部と店舗をつなぐ場所にできる段差などで足元が暗くならない照明配置が必要となる。

玄関からロビーに導かれて

玄関／下足箱　玄関口では、履き物を脱いで入店する場合、とくに履き物の区別が十分できる明るさの確保は重要である。また入り口壁面など、施設案内の情報や温泉の効能などが掲示される場所には、照明光によるライティングが必要とされる。下足箱が別室に設けられている場合には、下足箱の高さにより照明光が遮光される場合があるので、配灯位置には注意が必要である。

ロビーホール　従来の銭湯とスーパー銭湯との大きな違いは、飲食、散髪、エステなど、入浴以外に様々なサービスを付加していることである。それにより、施設内の滞在時間が飛躍的に長くなったといえる。そこでは、それぞれの目的に合わせた照明が必要となる。内装デザインの持つ雰囲気を十分に照明演出で引き立てつつ、その場に見合う照明器具を選定しなければならない。例えば、和風建築的な空間であれば、照明器具も内装を意識した和風デザインの照明器具が適切となる。また、ホテルのロビーのような豪華さやゆとりのある空間には、シャンデリアなどの装飾的な照明を設置する場合もある。基本的にはお客さまが待ち合いでくつろぐため、照明の持つ演出力で居心地の良い空間をつくりだすことが重要となる。

飲食　「風呂上がりの一杯」などと、入浴後の飲食を楽しみにするお客さまのためにも、食事を美味しく見せる照明は欠かせない。テーブル席や座敷席など形態は様々であるが、テーブル面にもっとも明るさが集中する照明器具の配置が必要とされる。食事は多くの場合セルフ形式が採用されているため、配膳のためのカウンター部への補助的な照明も大切である。メニューボードなどが壁面に掲げられている場合は、スポットライトなどで光の補足が必要となる。

また、厨房施設などが客席側から直接的に見える場合、厨房内の明るさが極端に低く設定されると、客席から見ると照度差以上に暗く感じられるため、双方の明るさのバランスは均衡した方が望ましいと言える。

そして浴室へ

脱衣室　お客さまが衣服を脱いだり着たりする重要な場所となるため、脱衣棚などによって照明光が遮られて陰影ができないような器具配置が必要になる。ここではメリハリの効いたダウンライト照



「やまとの湯 大正店」男子浴室――天井面HQIランプ70W×1灯（3000K）、床面照度平均約100 lx。壁面から天井面に向けたスポット光が反射して、浴室空間に間接光として広がっている

明よりも、フラットな配光の蛍光灯ベースライトが適している。特に、女子脱衣室のパウダースペースのミラー前には、ブラケット照明などで必ず表情を明るくするための補助照明が必要になる。

建築のバリアフリー化により段差はなくなりつつあるが、眼鏡などを外して入浴するひとは視覚が著しく低下するので、ドアノブなどをはっきり認識させる必要がある。

浴室　天井材がアルミスパンドレルの浴室が多く、天井高さが室内に比べて高く設定されている場合がある。器具取り付け位置については十分な配慮が必要とされる。例えば、天井面に埋込型照明器具の取り付け穴が開けられないなどの理由で、天井に直接照明器具を取り付けると、浴槽からの湯気が照明器具のカバー表面に付き、冷やされて床下に滴り落ちるという現象が起こりやすくなる。また、高天井や湯船の上でランプ交換も容易に行えない場合もあり、多くの場合は、壁面にブラケット照明を取り付けることとなる。ただしブラケット照明を取り付けるにも、お客さまは裸で歩行しているため、体に接触しない配置や高さの設定が必要である。特に、器具のカバー部分の素材には注意する必要がある。通常のガラスカバーやアクリルカバーは、接触や転倒などの不可抗力で破損した場合、予期せぬ事故につながる可能性がある。そのため、衝撃に強いポリカーボネート製のカバーを付けた器具などを選ぶ必要がある。

それに加えて、器具のフォルム自体も角のない滑らかなもの、出幅の寸法を抑えた照明器具、使用光源は寿命とメンテナンス性に優れ、白色光と電球色など光色の選べるコンパクト蛍光灯も用いたものが器具選定の基準となる。40～60W相当の電球を用いることで、床面照度約100 lx程度の明るさは確保できる。実際に、照明器具は洗い場のカラン上のミラー上部に取り付けることが多く見受けられる。この位置がもっともミラー前に座ったひとの表情を効率良く照らし上げることができる。洗い場のミラー上に連続的に配置される多数のブラケットからの照明光によって、浴場内の照度は保たれる。最近では、ブラケット照明だけではなく、防水型の蛍光灯を使った間接照明の柔らかい光で、ホテルのロビーのような落ち着きのある空間をつくりだす手法や、より規模の大きい浴場などでは防水機能のポール灯などを設置して照度をつくりだしている。

光ファイバーを用いたカラフルな水中照明を設置して、入浴する楽しさを感じてもらうなど様々な趣向を凝らす傾向もある。

露天風呂　屋内浴場は、安全面から十分に照度を確保できうる環境を整えることに重点を置くが、露天風呂に関していえば、むしろ「自然の中の暗さ」を感じさせるような照明が必要といえる。外界の温度差を肌で感じ取るように、照明環境も変化があるべきで、歩行の動線と湯船に浸かる場所のみが十分に明るさを保ち、あえて陰影を強調させ雰囲気を楽しめる演出が求められる。その際には、星空を見上げるという演出効果を高めるため、照明器具の放つ光のグレア（まぶしさ）を十分に制御することが適切である。

より良い空間は、建築家との理想の共有から…

以前は、建築家が、設計にからむ様々な分野を一手に引き受けて建築物をつくり上げていた。やがて各分野が専門化するにつれて、一つひとつの仕事が分業化されてきた。そしてインテリア、設備など様々な分野の人々に支えられて建築物は完成する。

建築を支える照明設備も例外ではなく、照明器具製作メーカーのインハウスデザイナーやフリーの照明デザイナーによって、専門的知識やノウハウを駆使して空間演出をつくることが増えつつある。しかしながら照明デザインという分野は、歴史そのものが大変浅く、最近ようやく認知されてきた。良い照明、悪い照明と簡単には線引きはできないが、誰もが何の疑いもなしにその場の雰囲気に溶け込めることが、照明の成功の要である。照明光がひとの心に訴える訴求力は、店舗経営そのものに大きな影響力を与えるといっても過言ではない。

より良い空間を求めるならば、建築設計の初期段階から、照明デザイナーが建築家と理想の形を共有する必要がある。

「スーパー銭湯」という一連の建築空間をとってみても、一つひとつの目的に合わせた「光」が存在する。機能優先のものから、心情に訴えるものまで、時には単純に、時には複雑に連携しながら成り立っている。ロウソクの明かりの下ではなぜか打ち明け話をしたくなる気分になったり、カラフルできらびやかな光の下では高揚した気分になったり、豪華で重厚なシャンデリアの下では姿勢を正されるような気分になる。安全のための照明や生産性を上げる照明は、単純な計算値のみでつくりだすことができるが、ひとの心に訴える光は、形や数値では表すことができない。一般論では測れないところで、照明計画の奥深さがある。

われわれは、この照明という仕事を通じて優れた生活環境の創造の一躍を担えればと思う。

（おおみ　けんご　大光電機株式会社TACT大阪デザイン課主事）

住宅のお風呂の変遷

国府田人紀

浴槽の歴史

江戸時代の庶民の入浴には、都市部においては主に銭湯が利用され、華やかな湯屋文化が形成されていた。ちなみに、1884年（明治14年）には東京市内に銭湯が1126軒あったとの記録がある。一方、住宅の風呂としては一人用のいわゆる据風呂（すえぶろ）が農漁村部で使用されてきたようである。

明治になると、政府の富国強兵策に基づいた国民の健康維持を目的として、積極的な入浴奨励により住宅への設置（内風呂）が徐々に進んだ。当時の風呂桶は材質としては木製の桶が中心で、桶の中に釜を内蔵した「鉄砲風呂」や、鋳物製の桶を直焚きする「五右衛門風呂」が中心であった。

石鹸は1873年（明治６年）に国産化され、庶民の手にも行き渡っていたが、1930年代（昭和５年ごろ）になるとシャンプーや入浴剤も発売され、このころが、単に清潔・衛生だけを目的とした入浴から、入浴を楽しむ個浴文化の黎明期だったとも言えるだろう。

戦中戦後の劣悪な住環境では、住宅の浴室に目を向ける余裕すらなかったが、住宅公団の建てたいわゆる公団住宅が全国に林立するや、再び庶民に入浴の楽しみが蘇ってきた。1960年代のホーロー浴槽、70年代のステンレス浴槽やＦＲＰ浴槽と、矢継ぎ早に新しい素材の浴槽が開発されるや、それまでの木製、タイル製の浴槽に取って代わることとなった。特にＦＲＰ浴槽においては、量産効果をフルに発揮したことでコストダウンも急速に進み、普及に拍車がかかったことは、ご記憶のことと思う。その後、1980年代には人工大理石浴槽も開発され、現在では高級浴槽としての地位を築いている。

ユニットバスの登場

浴室の工法に目を向けてみると、湿式在来工法が中心であったものが、東京オリンピックを翌年に控えた1963年（昭和38年）に、その後の浴室工法に革命的な影響を与える変化が起こった。ユニットバスルームの登場である。ＴＯＴＯが世に先駆けて上市したユニットバスルームも、当初はホテルに需要先が限られていたが、集合住宅・戸建て住宅へと瞬く間に普及し、今では集合住宅においては普及率ほぼ100%、戸建て住宅においても全国平均で85%程度の普及率になっている。特に北海道は、戸建て住宅へのユニット化が早くから起こり、今ではほぼ100%と言って良い普及率となっており、住宅の風呂文化にも大きな影響を与えるに至っている。

最近のお風呂事情

次に、最近のお風呂事情に話を移してみよう。



まず高齢化社会の到来に伴う、加齢配慮設計の浸透が大きな変化として挙げられる。住宅金融公庫など公的融資基準にバリアフリータイプおよび割増し融資が加わったことで、浴室の加齢配慮も一気に進み、メーカー各社のシステムバスルームもバリアフリーが標準仕様として定着した感がある。

また、換気はもちろんのこと、冬の寒さ対策としての暖房と洗濯物の乾燥を１台でこなす換気暖房乾燥機の普及（最近のセット率は27%程度に上るとの調査結果がある）や、くつろぎや癒し空間を構成する機能として、ジェットバス・エアブロー・ミストサウナ・水中照明・浴室テレビなども当たり前化しつつある。

望まれる浴室とは

将来の浴室は、一体どのようなものになってゆくのだろうか？至れり尽くせりの設備満載で、さらに先鋭的な機能開発が進むのだろうか？　私はここで原点に立ち返って、次の二点を指摘したい。

まず、安全性の更なる向上である。浴室での死亡事故が年間推計１万４千人にも上っている事実を、何とかしなければならない。浴室の暖房や半身浴、シャワー浴など安全性の高い入浴に適した設備計画が必要だと思っている。

次に、当たり前だと思われがちな基本性能の充実である。誰もが欲しいと思う、ひろびろした浴室・ゆったりした浴室・からっとした浴室・掃除しやすい浴室・暖かい浴室―これら基本的ではあるがなかなか解決の難しい課題を一つひとつ地道に解決してゆく姿勢が望まれると思うのである。

浴室の進化は、入浴好きな日本人独特の文化に支えられ育まれて現在に至り、そして未来へと引き継がれてゆくのである。

（こうだ　ひとき　東陶機器株式会社広報室）

水栓金具の変遷と特徴

荒木　修

銭湯から発展した洗い場の水栓

欧米と日本で入浴形態がもっとも異なるところは、浴槽とは別に洗い場があり、そこで体などを洗うために専用の水栓金具（カランやシャワー）を使うことである。これは、欧米の影響を受けているホテルと、温泉や銭湯の違いとも言える。ホテルでは、浴槽内で入浴行為が出来るようにシャワー・湯水の混合部・浴槽落とし込み用カランが壁面へ上下別々に取り付けられているのに対し、銭湯では、体を癒す・温めるための湯船と、体を洗う場所が別々に設けられ、洗い場には専用の水栓が設置されている。給湯機とユニット工法の普及で、一般家庭においてもこの銭湯の形態が最も普及してきた。

洗い場の水栓は出っ張りとの戦い

洗い場の水栓は、湯水の混合の仕方で2ハンドル、シングルレバー、ミキシング、サーモスタットの4つの機能に分類される。それぞれの機能は、使い勝手や価格などを考慮し選定されているが、シャワーの使用が多い洗い場用では、安全性・利便性・快適性から、現在では温度を自動調整するサーモスタット付き混合栓が主流になっている。銭湯の洗い場水栓も、かつては湯と水の単水栓を同時に温度調節しながら使用していたが、近年はこのサーモスタット付きを採用するケースがほとんどである。


図1　壁付きサーモ水栓

ＩＮＡＸが最初にこのサーモスタット付きシャワー水栓を発売したのは1979年で、ホテル用の埋込水栓と同じ、上がシャワー用ハンドル、正面が温度調節ハンドル、下がカラン用ハンドルの操作形態である（図1）。操作のインタフェースは理にかなっていたが、壁面に埋め込んでいた水栓を一体化し、壁に取り付けたため、出っ張りとボリューム感がある。

このボリューム感を抑えるため、ハンドルを横に並べたデザインシリーズ：ミキシーナUを1983年に発売した。シャワー水栓は常時適温で使用するため、操作頻度が少ない温度調節ハンドルは左に、頻度が多い開閉ハンドルを右とした（図2）。ただしシャワーとカラン2つの開閉があるため、別途切替部を正面に設けた。使い勝手として、開閉ハンドルの操作時はシャワーとカランどちらから出るかをあらかじめ確認または切り替えた上で行う必要がある。


図2　ミキシーナUシリーズ

この問題を解決するため、シャワー側、カラン側への吐水と止水ができる切替バルブを開発し、本体の左右に温度調節ハンドルと切替ハンドルを配置したエクセドールシリーズを1989年に発売した（図3）。これは出っ張りがなく合理的な構造のため、現在の国内の洗い場用壁付きサーモスタット水栓のスタンダードになっている。


図3　エクセドールシリーズ

高齢社会への突入により1996年には、加齢対応バリアフリーに配慮し、操作性、視認性、安全性を向上させたエスパーサシリーズを発売した。使用頻度が多いシャワーカラン切替ハンドルを、シングルレバー水栓で実績があった穴開きレバー形状とし、大きさも可能な限り大きくした。また熱くなる水栓本体の湯路は、水路で覆うことで昇温防止構造にした。さらに自社ユニットバス用では、給水・固定に必要な湯水のクランク脚が、カウンターへ直接本体を固定することで無くした（図4）。クランク脚が露出しない仕様は、ヤケドへの配慮のほか、出っ張りもなく、清掃性の面でもメリットがあった。さらに、水栓本体をカウンターに埋め込み、温度調節ハンドルと切替ハンドルのみ露出させ、正面に配置された温度表示・切替表示により視認性を向上させたタイプも同時に発売した（図5）。この埋込タイプのコンセプトは、様々な洗い場空間に適合できるため、今日のユニットバス水栓の主流になっている。


図4　エスパーサクランクレス


図5　エスパーサ埋込タイプ

多様化する入浴スタイルへの挑戦

25年前にホテルの壁面から飛び出し、家庭の洗い場に登場したサーモスタット水栓は、ユニット化により再び埋め込まれている。

今後洗い場の水栓に求められるものは、機能面での付加価値付けと、多様化した入浴スタイルへの対応である。機能面では、湯温を光の色で知らせる安心機能や、手元で一時止水ができるシャワーや塩素除去シャワーなどの付加価値を、若年層の浴槽派からシャワー派への変化や高齢者や要介護者への配慮から、立っても座っても使用できるシャワーユニット（シャワードバス）などを発売している。

市場環境の変化で、洗い場は変化していくだろう。水栓メーカーのわれわれもさらなる付加価値付けと、新しい形態を提案していく。

（あらき　おさむ　株式会社ＩＮＡＸ設備事業部商品開発室担当課長）

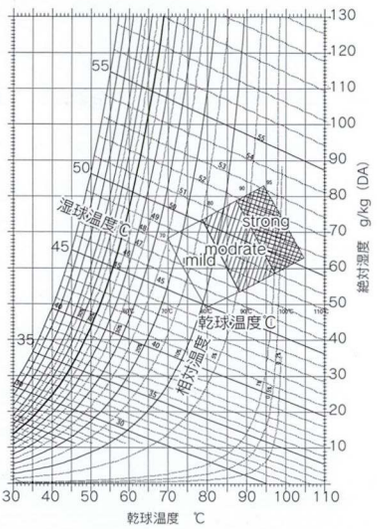
サウナ「ミスト・ドライ」開発の歴史

山本博美

サウナという言葉は語感がやさしい、耳にも心地よいフィンランド語の一つで、急速に世界に広まり、法的な保護もされていないために乱用され、サウナではないものにまで使用されている。本稿のタイトルにもあるミストサウナは、サウナではない。

ドライサウナとはなにか？

ここではサウナ温湿度条件（図）を示すにとどめるが、サウナはフィンランドで2000年の歴史を有する文化である。国が変われば、法規も異なるし民族性も違ってくるので、ある程度変わるのは止むを得ないことではあるが、本質をよく理解し、似て非なるものであってはならない。



もう一つ付け加えれば、フィンランドのサウナの数は150万といわれ、3.3人に1室の割合で普及している。パブリックサウナはスポーツクラブや老人介護センターのもので、ほとんどはプライベートサウナである。

日本におけるサウナの歴史

サウナが世間の関心を集めたのは、昭和39年東京オリンピックのとき、フィンランド選手村に作られたサウナをマスコミが紹介してからである。サウナ営業店の第一号は東京銀座にあった東京温泉で、昭和26年にオープンしていたが、当時の社長が昭和31年のメルボルンオリンピックに射撃選手として出場し、このときサウナを体験し、見よう見まねで室内に配管をめぐらし、蒸気を通して室温を上げるサウナを作ったという。当時本格的サウナがあったのは、フィンランド大使館（当時は公使館）だけだったと思われる。

昭和40年代は、全国的にサウナブームの時代となる。われもわれもと「日の当たる業界」に参入し、経験もないまま、サウナのプロを自称する業者が乱立するようになった。健康産業としてのサウナ業がおかしな方向に進む懸念もあり、業界の健全化やPRを目的とした「日本サウナ党」が結成された。昭和47年のことである。サウナ業者有志と一般ユーザーが結束し党首に元厚生大臣・川崎秀二氏を頂いた愛好会であった。現在の㈳日本サウナ協会の前身である。

同時に、サウナ設備業者も「全国サウナ技術者協会」を結成し、関係官庁との法規整備の窓口になり、安全性を高めていった。

サウナを楽しむために

公共のサウナ設備は、建築基準法、消防法、公衆浴場法等の法規制を受ける。安全、衛生上の面から当然のことであり、大勢の人が利用する場合、好みの違いも出てくるから、どうしても最大公約数的になるのは致し方ない。しかし、家庭サウナにおいても画一的で、見た目だけのサウナが多い。これはサウナの設計者がサウナの楽しみ方を知らないからだと思われる。

フィンランドでは、サウナ浴で最も重要なことは温度、換気、ロウリューといわれている。サウナ浴の楽しみ方は、サウナと水風呂（温と冷）、ロウリュー（乾と湿）にあるとされる。もう一つあげれば、ヴィヒタ（VIHTA:白樺の葉っぱの付いた小枝）で体を叩くことによりロウリューの効果は高められる。サウナと水風呂についてはよく理解されており、日本のサウナ愛好家のほとんどが、その爽快感を楽しんでいるが、ロウリューについては、最近やっとその楽しみ方が知られるようになってきた段階である。営業店でも、時間が来るとサウナの施設管理士が水を入れた桶を持ってきて、柄杓でサウナストーンの上に散水し、ロウリューを演出する所も出てきたし、タイマーで自動的に散水する設備を備えた店も出てきている。ロウリューという、サウナ独特の醍醐味がやっと理解されてきたようである。

サウナの種類

日本のサウナでは、熱源でみれば電気、ガス、蒸気、オイル、液化ガス等があり、加熱方式では自然対流式、輻射式がある。最近韓国で開発されたもので、加熱炉の中で熱した大容量の石を、室内に引き込んで発汗させる方式も出来ている。

残念ながら、多くのものがサウナ室の温度を高めることしか考えていない。サウナストーブの目的は二つあり、一つはサウナ室の温度を高めること、もう一つは、ストーブの上に積んだサウナストーンに水を掛け、ロウリューを楽しむことである。サウナストーンに水を掛けて蒸気を発生させたとき、マイナスイオンも発生する。ロウリューによる醍醐味は、乾と湿の切り替えだけでなく、マイナスイオンによる体の活力を増進する作用も大きいといわれている。

ミストサウナはサウナではないと述べたが、ミストサウナと呼ばれているのは、天井のノズルから60℃の湯を霧状に噴霧した部屋で、雰囲気としてはスチームバスに近い。噴霧した霧で体がしっとりと濡れるので発汗が良いと誤解されるが、いくら発汗してもしても水風呂に入る気にならないのは、多くの人が体験していることである。

（やまもと　ひろよし　中山産業株式会社取締役部長、工学修士）

露天風呂、ヒーリングサウナ、漢方薬草サウナ

高橋圭一

露天風呂

最近のスーパー銭湯は、露天風呂の広さは男女それぞれ50坪ずつ、合計で100坪が標準的になっている（スーパー銭湯の誕生以来、一貫して拡大傾向にある）。これだけの広さがあれば、ある程度の開放感は演出できるが、これだけでは居心地のよい露天風呂はできない。

①各浴槽からの視線を植栽などで遮る必要がある。裸では他人の視線は気になる（特に女性に顕著な傾向）。また、「一人で広い露天風呂を独占している」気分になれるよう最大限に配慮すべきである。露天風呂のアイテムの中でも一人用の壺風呂の人気が高いのは、このような理由による。

②「居場所」（ベンチや寝転びデッキ）をたくさん用意することも重要である。個人差もあるが、お湯につかっている時間というのはそれほど長くはない。また、これだけの時間では「ゆったり」「のんびり」といった印象は与えらない。お喋りしたり、ほてった体を冷ますための場所をたくさん提供することによって、居心地のよさを演出する。寝転び湯（石またはタイルのベッドにわずかな傾斜をつけ、そこにお湯を継続的に流すアイテム）はお湯につかりながらゆっくり休めるメニューのため、非常に人気が高い。

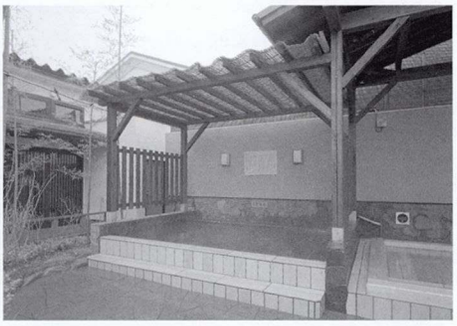
③内風呂のように「体を洗う」「サウナで汗をかく」「ジェットバスで体を刺激する」などの行為は露天風呂にはないため、飽きさせないためのアイキャッチや音も露天風呂には欠かせない要素である。景色のいい露天風呂であればともかく、街中にあるスーパー銭湯ではそのためにシンボルとなるような滝やＴＶを設置し、また音による癒しや躍動感を演出するためにも、お湯の動きを感じさせる浴槽を工夫すべきである。



露天風呂



壺湯



寝ころび湯

ヒーリングサウナ

原理

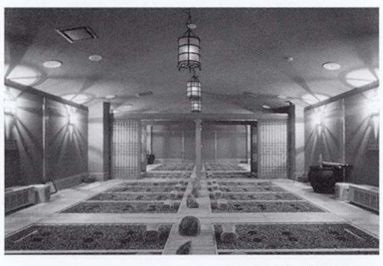
- 40℃前後に保たれた室内で、50℃前後に温められた「生効石」や「トルマリン」などのベッドに、専用着を着て横たわり利用する低温サウナ

効果

- 立体音響装置や天然ハーブの香りによるヒーリング効果
- 遠赤外線・マイナスイオン効果で体を芯からあたためる
- 40℃前後の低温サウナで無理なく発汗

効能

- 老化予防、美肌作用、疲労回復、ガン予防、免疫力の向上
- 肩こり、腰痛、冷え症に最適



ヒーリングサウナ

漢方薬草サウナ

原理

- スチームサウナの発展形。中国古来の伝統的な中医学理論に従って、天然和漢植物を合理配合し、その有効成分の蒸気を吸入、あるいは皮膚組織に浸透させる

効果

- 身体（呼吸器系・循環器系・消化器系）の機能を高める
- 皮膚組織の新陳代謝を促進し、栄養を供給し、肌を潤い、美肌スキンのトラブルも解消

効能

- 植物特有の香りにより、心身のバランスを調整
- リラックスできることで、健康増進にも寄与



漢方薬草サウナ

（たかはし　けいいち
株式会社玉岡設計
営業開発室リーダー）

銭湯とマッサージチェア

竹端秀海

マッサージチェアの歴史

昨今、マッサージチェア市場では、機能重視型・高額機種への偏重の傾向がある。マッサージチェアは元来体感を重視する特性から高額機種への人気は高いが、ここ１年来、「業界初」「新機能」など各メーカーとも新機能開発に心血を注いでいる。メーカーが商品開発に力を入れることは業界発展のためにも非常に喜ばしいことであるが、機能性に目を向けるあまり、マッサージチェアが本来持っていたはずの娯楽性が見失われているように感じるのである。

マッサージチェアを想像するとき、未だに日本人の大半は「銭湯のあんま機」を思い浮かべる。このあんま機はおよそ50年前、大阪の堺市で生まれた。「あんま」とは「按摩」と書き、「按はもむ」「摩はさする」という意味を持つ。その名の通り疲れたところを人の手に代わり揉むだけの単純な機械であったが、機械が体を揉んだり叩いたりするあんま機の体験は、全く新しい娯楽として受け止められていたらしい。この体感型の娯楽性こそが、当時最も庶民的な娯楽の場であった銭湯に受け入れられた大きな理由であろう。



旧式あんま機
―銭湯タイプ（コイン式）―



2003年６月発売
ファミリー
メディカルチェア

このあんま機が家庭用として普及したのが昭和40年代、お風呂も銭湯から内風呂に移行する時期と重なる。このころのあんま機には、機能的に大きな変化が表れる。疲れたところを揉むだけの機械から、ローリングという医科向けローラーベッドを応用した機能が開発され、理論的にも整備が進むことになるのである。この背景には高度経済成長の裏にある労働の激化・公害問題という健康に対する関心の高まりが存在していた。また、地域コミュニケーションの場でもあった銭湯は、私的なお風呂に取って代わられることになる。庶民の娯楽であったあんま機も、普及するためには、より機能性と便宜性を重視した現実的なものに転換する必要があったのである。

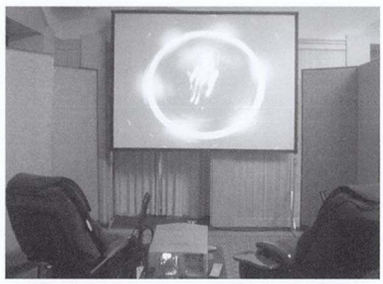
家庭用との決別

ところが昨今、銭湯を大規模化したスーパー銭湯や、より娯楽性を高めた健康ランドがブームとなっている。これはかつて庶民的な娯楽の代表格であった銭湯への回帰であり、内風呂という現実から逃避し、非日常の世界に癒しを求める現代人の傾向を示しているといえる。これら現代風銭湯にもマッサージチェアは必需品として設置されている。しかしそれらは、現在家庭用として販売されているものと比べ、はるかにシンプルなタイプが多く、家電販売店で売れ筋とされる高機能タイプのものはほとんど見られない。それでも、スーパー銭湯におけるマッサージチェアの人気は高く、休日などには順番待ちができることも少なくない。

新たな潮流

銭湯での娯楽用として誕生したあんま機は、内風呂の普及とともに実用的な家庭用のマッサージチェアとして進化してきた。お風呂とマッサージチェアは切っても切れない外戚関係にあるともいえる。ところが現在に至り、スーパー銭湯という新しい形態のお風呂で求められるマッサージチェアでは、家庭用のそれとは異なるところにニーズがあるのである。

今後、銭湯などでの業務用マッサージチェアに求められるものは、より高い娯楽性であろう。非日常的な癒しを求め銭湯に集まる人々には、体を揉むだけの現実的なマッサージチェアでは物足りないのである。視覚や聴覚からのリラクセーションも取り入れた総合的な癒しマシーンとしてのマッサージチェアが求められる。例を挙げれば、音楽との連動を図ったマッサージチェア。液晶テレビやプロジェクターなどの映像とのコラボレーションができるマッサージチェアである。これらは実際にエンターテイメントタイプのマッサージチェアとして、すでに一部の施設では導入がなされており、今後は業務用の主流になるものと考えられる。



メディカルチェア　シアターシステム
スーパー銭湯、健康ランドで展開中



ファミリーメディカルチェア
エンターテイメントタイプのマッサージチェア

業務用としてのマッサージチェアは、家庭用とは異なるニーズを持って、新たな方向性を見出し始めた。家庭用のマッサージチェアにおいても、ホームシアターやプラズマテレビが普及し、非日常的なゆとりを家庭において楽しむ層が増えれば、将来的には同様の方向へ進む可能性も考えられるであろう。

（たけばた　ひでみ　ファミリー株式会社営業企画課課長）

天然温泉 名湯「宝乃湯」～計画段階から参加して～

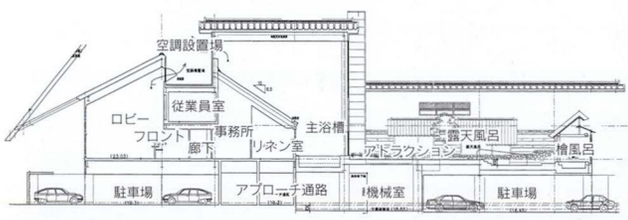
木村公之

学生時代（昭和30年代初め）、東北地方の酸ケ湯・後生掛・小牧・紅花温泉、中部地方の鑓・草津・下呂・下諏訪・箱根小涌・熱海温泉、そして近畿・中国・四国の各温泉、九州の別府・指宿のジャングル温泉と、いま考えると意外に多くの温泉巡りをしていたことに私はあらためて気付く。そして、のどかな温泉郷の人情・たべもの・風景がなつかしく思い出されるのである。

名湯「宝乃湯」における施設提案

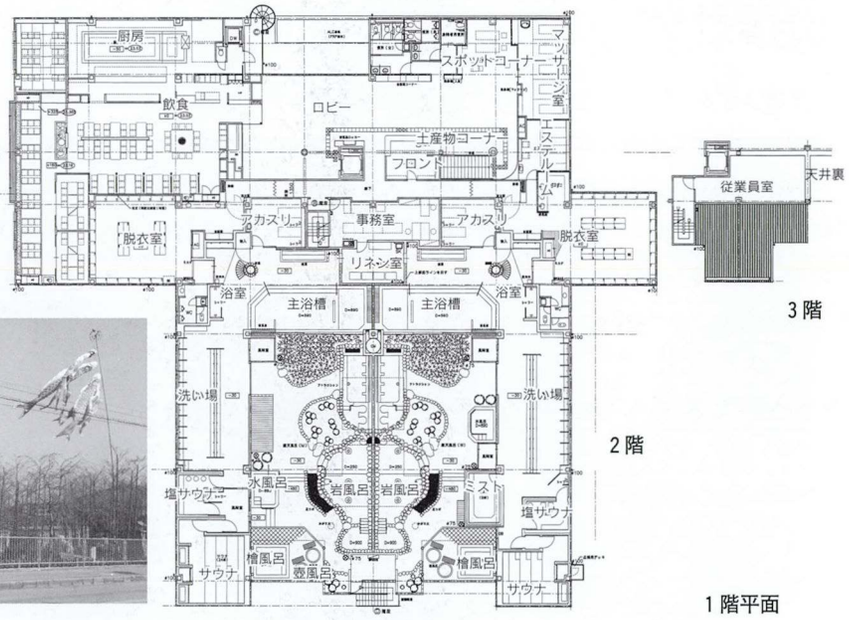
いま、関西地方にもスーパー銭湯がブームの様相を呈してきた感がある。

名湯「宝之湯」は、敷地が定まるのに数年を要している。立地と土地所有権者の調整で時を費やしたのである。当社は単なる建物の設計だけでなく、温浴施設のコンサルティング（マーケットリサーチから運営管理・スタッフの研修）と、連携した施設提案を業務としている。スーパー銭湯では、車のアクセス・駐車台数が重要であるが、F/Sの結果、開発申請・工期を配慮して南側の玉石土留をそのまま残すという基本方針から車の進入位置が定まり、駐車台数を確保することを最優先事項として１・２階の構成が決まった。ウェットゾーンを２階にすると構造コストは上がるが、露天の眺望・配管工務費・メンテ・工期等でメリットがあり、総合的に判断すべき



断面



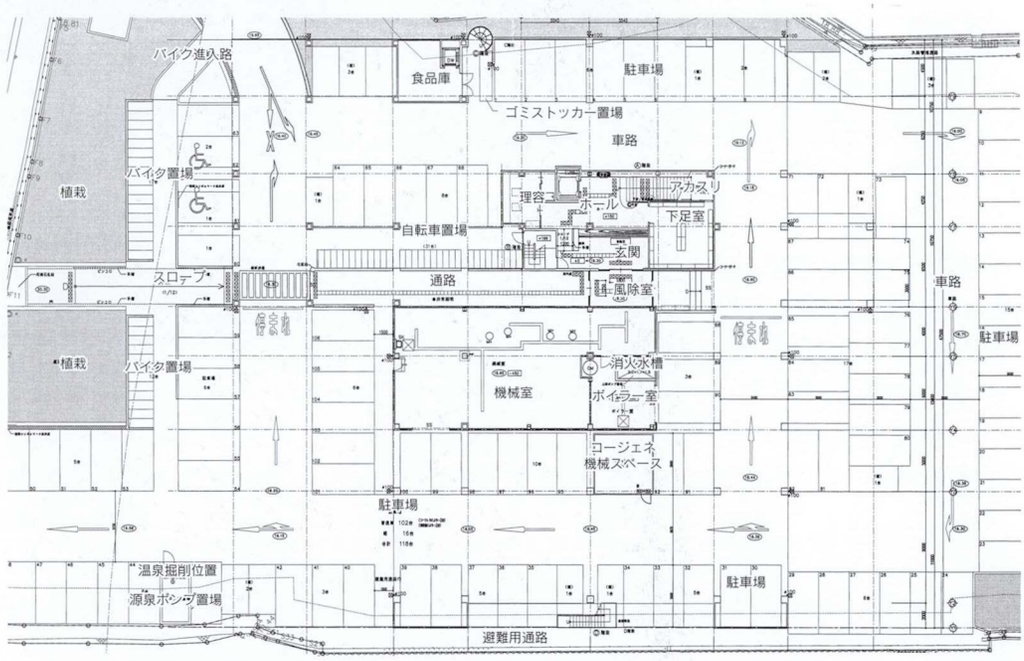


2階

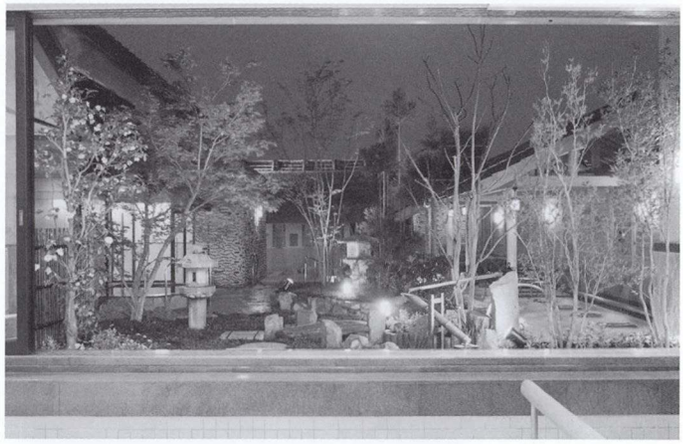
3階

1階平面

天然温泉　名湯　宝乃湯
事業主体　㈱名湯舎
所 在 地　兵庫県宝塚市中筋３丁目
敷地面積　4,752.98㎡
建築面積　1,831.63㎡
延床面積　3,360.92㎡
構造規模　Ｓ造　３Ｆ
最寄り駅　JR宝塚線中山寺駅









だと思う。

事業収支から、水は飲用以外は井水で賄うが、本件では良質の水が要求水量確保でき、一同ホッとした（宝塚市は上がり湯に飲適を指導）。差別化の一つとして、温泉掘削は当初から決まっていたが、泉質検査結果を関係者一同複雑な気持ちで聞いた。それは、効能は素晴らしいが、掛け流しでは湯あたり者が続出し、下水放流でもスケールの問題がある…というものであった。源泉浴槽を小さくしてカスケードで露天岩風呂に導水して希釈し、さらに貯湯槽を経て放流するというシステムを構築したが、いまのところ人気は上々のようである。

スーパー銭湯ならではの工夫

露天風呂と内風呂の構成については、クライアントとスムーズに合意に達し、内風呂は静かな空間とし、露天風呂は立地を生かして開放感のあるものができた。

景色としての茅葺きの屋根は、当局との折衝で実現し、入浴者には好評のようである。露天風呂の男女境壁の構造については、リゾート地とリピーターとでは心理状況に違いがあるということで、材料（125㎜杉板）を倍以上使って重量感のあるものに変更した結果、懸念した「隣の気配」は完全に解決した。

サウナの構成は男女で異なり、女側は遠赤・ミスト・塩の３種類とし、水風呂も男子と同じく露天に付設した。サウナは嗜好性が強く、レイアウトでは悩まされるところである。立地条件を考慮すべきで、マッサージ・エステ部門も同様である。理容は最近付設されることが多く、閉店が遅いのが受けているようである。

手軽さ（700円入湯税75円込み・閉館25：00）でやすらぎ、癒しを感じて頂くということで、仕上材も天井材を除いてできるだけ自然材を採用し、内風呂袖壁には紀州の備長炭（古座産）を練り込み、瓦も同じ仕様で内外部に多用した。家族風呂・スキンシップの場としての壺風呂も信楽焼の特注品とし、洗い場壁タイルもメンテを考慮して木目調を特注した。

飲食部門は収支・デザインとも重要な要素であり、今回は途中でフルサービス方式（テナント契約）に変更（設計者も）になったが、スペース配分以外に違和感はなく、七福神ねぶた（クライアント特注・青森県産）と妙なる空間均衡を保っている。

外壁の色・庭づくりについてはクライアントの好みが反映されており、勾配屋根・孟宗竹（約300本）・高灯籠風の外灯とともに施設の表情になっている。セキュリティについては最近の世情に鑑み、ITVをはじめ十分な対策が講じられている。

熱源もそのコストパフォーマンスは重要で、油・電気・ガスを比較検討した結果、ガスに落ち着き、20kWのコージェネを併設している。

裸のつきあい

１日3000人を超える入館者があり、ハードだけでは混乱の状況にあったが、ピーク入館対応ソフトの処理で不快な印象を与えず、平準化した来館が続いている。

日本らしい裸浴文化が若い世代に受け入れられ受け継がれて、文字通り裸のマナーから世間が少しでも穏やかになり、昔訪れた温泉郷のみなさんの和やかな表情が名湯「宝乃湯」の周りにひろがることを願わずにはおられない。

このプロジェクトは天地人すべてがうまく噛み合った結果であり、特に工事関係者の方々には、短い工期の中で変更の多い仕事を安全に成就されたことに深く感謝を表しつつ稿を終える。

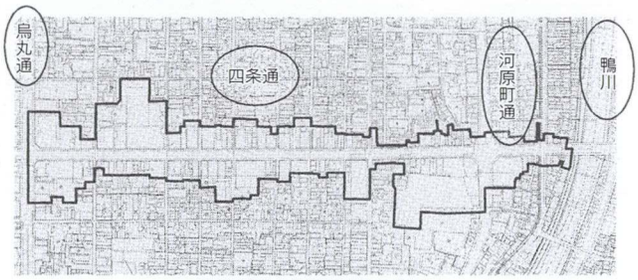
（きむら　まさゆき　株式会社アクアテックジャパン取締役設計統括部長）

風格と華やぎのある商店街の形成を目指して

和田豊志
京都市都市計画局公共建築部企画設計課課長補佐

四条通地区の概要

京都市は平成15年７月、四条通地区地区計画（四条通沿道の烏丸通から四条大橋の西詰めまでの約１キロメートル・約13ヘクタール）を都市計画決定した。商店街振興組合が中心となって、魅力ある商業環境の形成のためまちづくりに取り組み、京都市で初めて地区計画の案をまとめた事例である。



四条通地区地区計画の範囲

この辺りは明治時代に市電が開通したことをきっかけに京都の中心的な商業・業務地区として急速に発展し、沿道には伝統ある老舗や百貨店をはじめ、金融機関や証券会社など各種事業所の本社・支社などが集積している地域である。

現在、四条通沿道は京都市都市計画マスタープランにおいて、京都市域のみならず都市圏等の活力を支える中枢的な都市機能の集積を図る「中心商業・業務地区」として位置付けられている。

まちづくりの推進

四条通地区においては、平成12年に四条繁栄会商店街振興組合（以下「四条繁栄会」という）が定めた「基本理念」を元に、新しさと伝統に加え独自性を重視する商店集団として、風格あるストリートづくりに向けた環境の整備に取り組むとともに、景気の低迷による企業や金融機関の支店の閉鎖などで増えつつある空き店舗対策を積極的に展開することを検討しているところであった。

四条商店街の場合、京都を代表する中心的な商店街であるため、空き店舗のまま長期にほっておかれている建物や、空き地のまま利用されていない土地は非常に少ないが、店舗等の入れ替わりが意外に多く、そのうちに良好な商店街の雰囲気にマイナスの影響を与える業種が出店するのではないかという懸念が持たれていた。

そこで、平成14年夏、四条繁栄会では京都を代表する商店街にふさわしい魅力ある店舗の出店を誘導するための具体策を検討する機関として、新たにまちづくり委員会を発足させた。

具体策の検討

委員会では、四条商店街にふさわしい店舗の出店意欲を高めるためには、「風格と華やぎ」のある魅力あふれる商店街であり続けることが不可欠と考えた。そのための具体策を検討するため専門のコンサルタントをメンバーに加え、まちづくり委員会を中心に検討を重ねた。

委員らで共有された風格と華やぎのある商店街のイメージの主なものは、次のようなものであった。

- 歓楽街的な雰囲気は、四条商店街の風格に相応しくない。
- １階には飲食店や小売店舗を配置し、事務所などは２階以上に配置して、商店街の華やいだ雰囲気の連続性を保つ。
- 都心性の高い商業環境には、共同住宅の持つ日常生活の雰囲気はマイナス要因になる。

など、住宅地の居住環境を地区計画で守ろうとするのとは、少し違った視点で検討が続けられた。

地区整備計画・建築物等の用途の制限

次の各号に掲げる建築物は建築してはならない。

1　風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律第２条第１項に規定する風俗営業，同条第６項に規定する店舗型性風俗特殊営業及び同条第９項に規定する店舗型電話異性紹介営業の用に供するもの（マージャン屋及びぱちんこ屋を除く。）

2　建築基準法別表第２（ほ）項第２号及び第３号に掲げる建築物（マージャン屋及びぱちんこ屋を除く。）

3　共同住宅，寄宿舎又は下宿。ただし，次に掲げる要件に該当するものについては，この限りでない。

（１）当該建築物及びこれに付属するもの（門及び塀を除く。以下同じ。）の外壁又はこれに代わる柱の面（以下「外壁等」という。）から四条通の境界線までの水平距離のうち最小のものが20メートル以上であること。

（２）当該建築物の敷地が四条通に接する場合には，当該建築物及びこれに付属するものの外壁等の四条通（当該建築物の敷地が接する部分に限る。）に面する長さの合計が８メートル未満であること。

関係権利者への対応

京都市は、地区計画によって土地の私権制限を行おうとするのであるから、利害関係者には賛否の判断ができるよう、まちづくりの取り組みを進めるうえで十分な説明と情報提供を行っていくよう要請していた。

商店街の会員は平たく言えば店主と店長に分類できるが、店主の多い少ないは、まちづくりを進めるうえで大変重要な要素になる。すなわち土地や建物に権利を持たない店長の場合は本社の不動産を管理する担当者に伺いをたてることになるため、店長だけでなく本社の担当者にもまちづくりの取り組みに理解と協力を得るよう努めなければならない。このため四条繁栄会では何度も役員らが直接本社まで出向き、まちづくりの趣旨を説明し、理解と協力を求めた。

まちづくりへの取り組みは広がる

今までは、商業者の団体は個々の店舗の商売が繁盛することを目的にいろいろな活性化のためのイベントなどに取り組んでいたが、今回の地区計画の事例は、良好で魅力的な商業の環境を維持するためにはまちづくりの取り組みが重要となり、そこで商売を営む商業者らが都市計画分野にも目を向けたものである。

四条通地区では、地区計画が策定され風格と華やぎのある魅力あふれる商店街の環境が保たれることで、四条繁栄会に相応しい集客力を備えた魅力ある店舗の出店意欲が高まり、これが商店街の活性化につながるのではないかと期待している。

京都市内では、この四条繁栄会の取り組みなどが周辺地域へと広がり、商店街の環境や商業地の居住環境を守るため自らまちづくりの取り組みをしたいという相談が増えてきた。

（わだ　とよし）

蛍光ランプのリサイクルの現状

杉山謙二
東芝ライテック㈱管球照明社管球技術部参事

蛍光ランプは、2001年に施行された家電リサイクル法の回収4品目には入っていない。しかしながら、経済産業省の産業構造審議会廃棄物処理・再資源化部会が2001年に見直した「リサイクルガイドライン」では、リサイクルを推進すべき品目として新たに追加された7品目のなかに、蛍光ランプ類として、指定されている。㈶クリーン・ジャパン・センターが発行している同ガイドラインのパンフレットでは、蛍光ランプの高効率化・小型化・長寿命化・水銀使用量の削減・自治体による回収、リサイクルの促進に言及している。

蛍光ランプの分別回収の現状

蛍光ランプには微量の水銀が含まれているが、水銀の放電により生ずる254 nmの紫外線を蛍光体によって可視光に変更することをその発光原理としていることから、これを完全に削除することはできない。ただし、技術の発展により1本あたりの封入水銀量も30年前は50mgあったものが、現在では10mg以下にまで低減されている。蛍光ランプは発光効率の高い光源であるため、省エネ意識の高い我が国では、バックライトを除いても年間約2億6千万本が販売されおり、毎年ほぼ同数のランプが何らかの形で破棄されていると推定される。したがって我が国全体では、多量の水銀が蛍光ランプ材料として使われていることになる。このような状況のもと、近年の環境意識の高まりもあり、使用済み蛍光ランプの分別回収の動きが進むとともに、リサイクル技術向上への期待も高まっている。

分別されて回収された使用済み蛍光ランプは、様々な方法で処理されている。最も安価な処理方法の一つは、回収サイトにおいて蛍光ランプを破砕減量したうえで、処理工場に運び、水銀と他の材料に分離する方法である。蛍光ランプは厚さ1㎜前後のガラス管内を真空にしている構造なので、重量の割にカサがはる。したがって、廃棄コストのなかで輸送費の占める部分が大きいと考えられ、破砕減量することにより輸送コストの大幅な削減が期待できる。

ただしこの方式では、集積サイトにおける破砕減量化処理を専門の中間処理業者が行うとは限らないので、破砕時の水銀拡散の心配がある。蛍光ランプはガラス管内を真空にしているため、破砕時にはガラス管が爆縮して、蛍光体が粉塵となって飛散することが避けられない。この蛍光体粉塵のなかには水銀が含まれているので、適切な密閉構造の破砕機が必要とされる。さらに輸送時点においても、水銀蒸気の大気拡散を防止するために、適切な密閉容器が必要である。

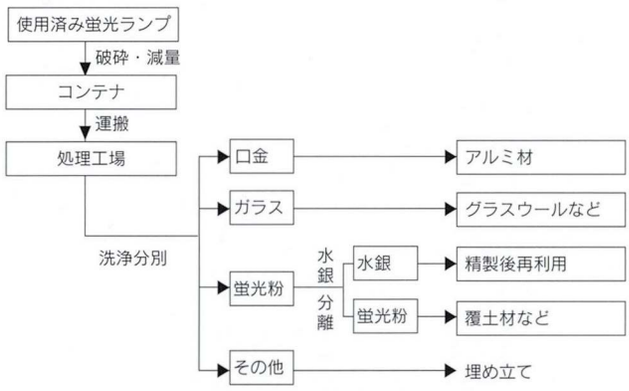


図1　破砕減量形処理の代表的なフロー

このようにして回収された蛍光ランプクズは、処理工場に運ばれ、水洗いにより蛍光粉とガラスに分離される。蛍光粉には、水銀が含まれているため、さらに乾燥熱処理により、水銀が分離抽出される。水銀は精製されて再利用される。脱水銀されたその他の部位は、そのまま埋め立て処理されることもあるが、様々な形でのリサイクルが試みられている。口金部のアルミは、比較的容易に分離できるうえ、高純度のアルミ材としての再使用が可能である。ガラスについては、グラスウールや路盤材などに再利用され、蛍光粉は覆土材として再利用される（図1）。

蛍光ランプへの再生

産業廃棄物扱いの事業系使用済み蛍光ランプでは、許可を受けた業者に処理が限られるため、ランプはそのままの形で中間処理業者のもとへ届けられる。事業系では、直管蛍光ランプが主体であるため、カサも比較的小さく、経済的な負担も小さい。

直管蛍光ランプでは、まず端の電極部を切断分離した後に、ガラス管内壁の蛍光体をエアブローにより除去する方法もとられている。この方法の場合、様々な材料が混在する電極部と比較的均質な材料からなるガラス管部分および蛍光粉を純度良く分離できるので、より高度な材料再利用の可能性が期待できる。また、3波長形・一般形などのランプを自動で事前に分離する技術と組み合わせることによって、高価な3波長形蛍光粉を分離抽出することができる。

3波長蛍光体粉やガラスは、適正な再生処理を施すことにより、再び蛍光ランプの材料としての再利用が可能である。実際に、このような技術の組み合わせにより、昨年、回収蛍光粉を90%、回収ガラスを17%使用した3波長形蛍光ランプ生産の実証試験例が発表されている。さらに、今年になり、ガラス管原料として、使用済み蛍光ランプから取り出したガラスを1%含んだ蛍光ランプの発売が発表されている。

このように、水銀を含んだ使用済み蛍光ランプの処理技術は、水銀分離による無害化処理の段階から、蛍光ランプから回収した材料を用いて蛍光ランプを作るマテリアルリサイクルの段階に達しつつあると言える（図2）。

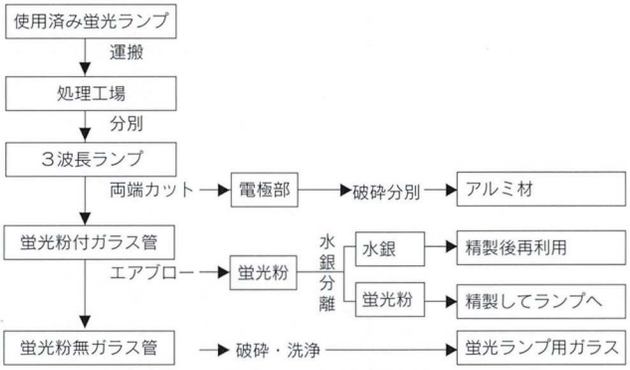


図2　蛍光ランプへの再生フロー

使用済み蛍光ランプのリサイクル技術についてはこの1～2年の間に大きく進歩してきており、今後は、効果的な回収を行うための社会システムの整備が期待されるところである。

（すぎやま　けんじ）

出版委員会企画第28回〈プロのノウハウ〉講座

井上まるみ氏講演会「プロが教えるキッチン設計のコツ」

山田　修
出版委員会顧問／修建築事務所

盛会だったよ講演会は

今回は、会場をハービスＰＬＡＺＡ４Ｆリビングミュージアム・イベントルームに移し、昼・夜二回の催しとなった。参加者は昼40名、夜22名の盛況ぶり。井上さんの衣装がよかった。洋服の上に右肩から左に着物を半分流した姿である。これだけで、一同を注目させることができよう。笑顔もよかった。最初に、ＯＨＰで画像を示しながら具体例の説明から入る。続いてテキストの本を指示し「まるみ流キッチン学」を次つぎと披露。初めは早口だった話が、落ちつきをとり戻してきた。

実務家としてのキャリアと自信が回りを温かく包みこんでいく。前の席では、うなづいている方が数人いた。一同、講師の顔を熱いまなざしで見つめている。これは出演者を力づけてくれた。会場全体が熱気にあふれてきたのが分かる。会場のすばらしい雰囲気もプラスしていようか。会場提供者にも感謝したい。講演会には「いい講師・いい会場・いい参加者」が必要である、ことを司会者として実感できた。

内容を紹介すると

内容は『プロが教えるキッチン設計のコツ』の著者の目次わりにしたがって進んだ。特価販売のこともあって、ほとんどの参加者が本を手にしている。次に、おもなことのみを列記してみよう。

① キッチンは「食事を作る仕事場で、人間の心臓のような存在」である。知育・徳育・体育の訓練場になる（コンビニ・外食は三育をダメにする）。

② 聡明な女性は料理が上手。手を動かすことは脳を活性化させる。手仕事をする人はボケない。

③ 人間は、他の動物の命をいただいて生命を維持している。「いただきます」「ごちそうさまでした」は、心こめて行いたい。

④ よいキッチンは、人生を豊かにする。ＤＫは、家族みんなの遊び場である。遊び場は楽しくなければダメ。

⑤ キッチンは、スペース割り・収納・設備機器で成り立つ。冷蔵庫からポンと物を置く：ポン→ジャブジャブ→トントン（ゴールデン・スペース）→ジュージュー→配膳.
野菜いため・ソーメンを作る場合、歩かないで仕事ができるか。

⑥ ジュージューは、ガスよりＩＴ（最近のものは火力が強い，水蒸気が出ない，清潔である）がよい。井上邸は早くからＩＴを使用（例をあげて説明）。

質問を整理すれば

問　台所機器の高さは・・・・・

答　身長の 1/2＋5㎝．通常は85㎝．既成の機器で高すぎると高いスリッパをはくorスノコを敷く。低すぎると困る（使用者の肩・腰が痛くなる）。ジュージューの高さは、トントンの場より10㎝下げる。

問　キッチンの床材は・・・・・

答　水・油類の汚れのつきにくい材料，汚れがついてもすぐに清掃できる材料を使う。通常はフローリング張りorフローリング張りの上にマットを敷く。

問　井上さんの設計になるキッチンはオーダーか・・・・・

答　ケース・バイ・ケースである。オーダーの時は井上が図面をきっちり引いている。
リフォームのときは、人造大理石はやめてステンレスを使ってきた。

＊

昼の部は主婦層が多くて質問者が続出。時間内に終了することができなかった。時間延長ごも10余人の方が遅くまで残り、講師に個人的に質問をしていた。　（やまだ　おさむ）



会場風景：女性がほとんどで、遠くは福知山・小豆島から来られていた。静かで落ち着いた会場は、司会者も気にいりました。

医療福祉建築賞2004募集

㈳日本医療福祉建築協会の「医療福祉建築賞」では、2001年4月1日～2003年3月31日に新築・増改築・改修をした医療・福祉・保健施設で、利用者にも職員にも快適で使い勝手のよいものを募集している。

応募資格　当該施設の開設者または管理者、設計者、施工者のいずれでもよい。

提出資料　応募申込書、建築概要、設計主旨、配置図・平面図・断面図、写真15葉程度。
以上をA3判クリアファイルにまとめる。

応募期間　2004年8月16日～8月31日（当日消印有効）

応募料　1作品につき50,000円

審査委員　長澤　泰（東京大学大学院教授）ほか6名

提出先　㈳日本医療福祉建築協会
〒108-0014　東京都港区芝5-26-20
TEL 03-3453-9904、FAX 03-3453-7573

応募書類はダウンロード可。http://www.jiha.jp

中部建築賞2004募集

中部圏（愛知・三重・静岡・岐阜・福井・石川・富山・長野・滋賀の9県）に、2004年3月31日までに竣工した新築・改修・修復建築物（一団の建築群を含む）を一般部門と住宅部門に分けて公募し、地域と環境に根ざした優れた作品の建築主・設計者・施工者を表彰する「中部建築賞2004」。その作品募集が始まった。

応募は、中部建築賞協議会の構成団体を経由して申込書・応募図書・応募料（1作品について、一般部門は38,000円、住宅部門は12,000円）を提出することを原則とする。

提出図書　案内図・配置図・平面図・立面図・断面図、特に強調したい部分の詳細図、写真（四つ切～キャビネ判、カラー、モノクロ問わず）、説明書（企画～施工で特に留意した事項、竣工年月日、総工事費等々）
以上をA3判、20p以内にまとめて提出。

提出期限　2004年8月31日（火）

問合せ先　中部建築賞協議会　http://tk-c.net
TEL 052-262-0838　FAX 052-262-0839

第9回神戸市建築文化賞の推薦募集

昭和49年から実施している「神戸市建築文化賞」は、来年1月に震災10年を迎えることから、今年度は震災復興への貢献をも視野に入れて、表彰を行う。

その候補となる建物の推薦を、神戸市では8月1日より募集している。選考結果は今年12月に発表予定。

建築文化賞　http://www.city.kobe.jp/city.office/33/36/bunka/を参照。

対　象　1995年以降に新築・改修した神戸市内の建物。用途・規模は問わず。過去受賞作は除く。

応　募　①推薦する建物名称・所在地・推薦理由②応募者の氏名・連絡先を明記して、9月30日までに持参・郵送・FAX・Eメールで提出。

選　考　神戸らしさの演出／良好なまちなみ形成への貢献／美しいデザイン／人や自然環境へのやさしさ／構造、設備などの高度な技術／震災復興への寄与／建築ストック活用への寄与―を主な評価項目として、選考委員会で審査。

応募先　神戸市都市計画総局技術管理課「建築文化賞の係」　〒650-8570（住所不要）
TEL 078-322-5629、FAX 078-322-6118
E-mail：kenchiku_bunka@office.city.kobe.jp

フォーラム“木の文化で都市の再生は可能か”

NPO法人西山夘三記念すまい・まちづくり文庫は、すまい・まちづくりフォーラム関西21の2004年シリーズで、「木の文化」の復権可能性を検証し、併せて21世紀の都市・市街地の再生方向を探る。

●第1回　2004年9月21日（火）13：15～17：00
・都市・市街地の歴史保全とアメニティ再生にとっての木（造）の役割／刈谷勇雅（文化庁文化財部建造物課課長）
・木造建物による市街地再生の試みとその現代的可能性／藤本昌也（建築家・現代計画研究所代表）

●第2回　2004年10月5日（火）13：15～17：00
・木造の街の防災安全性は確保できるか／北後明彦（神戸大学都市安全研究センター助教授）
・老朽木造建物・住宅の耐震改修工事はなぜ進まないのか／塩崎賢明（神戸大学大学院建設学科教授）

●第3回　2004年10月19日（火）13：15～17：00
・古民家再生を通して木の文化のデザイン性を考える／楢村徹（倉敷建築工房　楢村徹設計室所長）
・景観法制定を契機とする都市・市街地再生の可能性と木（造）の役割／西村幸夫（東京大学大学院都市工学科教授）

会　場　梅田スカイビルタワーイースト22階会議室
大阪市北区大淀中1-1-88
（JR大阪駅北出口から徒歩10分）

参加費　2,000円（1回券、含資料代）
5,000円（3回通し券）
学生は半額

申込先　氏名・参加日・連絡先を明記し、下記まで。
（当日受付あり。先着100名）
西山文庫　tel&fax 0774-73-5701
eーメール　npo@n-bunko.org

詳しくはホームページ　http://www.n-bunko.org/へ。

建築鑑賞講座「煉瓦と建築」

この講座では日本の煉瓦建築の見方、日本での煉瓦生産の歴史、煉瓦が生み出す建築細部の魅力を紹介する。参加者とともに、煉瓦とそれが生み出す歴史的建造物、歴史的景観の魅力を考えようという試み。

日　時　①2004年9月4日（土）14：00～16：00
「煉瓦建築入門」
②2004年9月18日（土）14：00～16：00
「煉瓦のディテール、その種類と積み方」
③2004年9月15日（土）14：00～16：00
「煉瓦の魅力をさぐる」

会　場　大阪歴史博物館　4階第1研修室

講　師　大阪歴史博物館学芸員・酒井一光

対　象　一般市民（3回連続で受講できる人に限る）

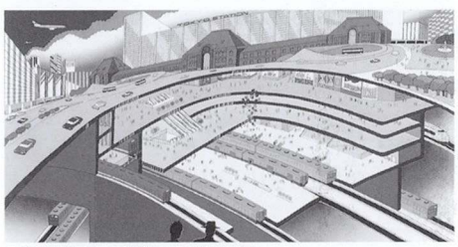
募　集　60人（申し込み多数の場合は抽選）

参加費　600円（3回通し）

応　募　往復ハガキに住所・氏名・電話番号を、返信ハガキに返信先を明記して下記へ。1人1枚。
大阪歴史博物館「建築鑑賞講座」係
〒540-0008　大阪市中央区大手前4-1-32

締　切　2004年8月20日（金）必着

真鍋博展



「多層都市・東京」挿絵原画
（『毎日クラブ』1972年5月号より）愛媛県美術館蔵

1960年代から印刷メディアを自らの発表の場として選び、イラストレーターとして活躍した真鍋博（1932～2000）の回顧展が開かれる。

初期にはアニメーションを手がけ、その後、未来学、エコロジー、エッセイを著し、テレビ、ラジオにも登場した真鍋博が残した膨大な作品、資料の中から、東京ステーションギャラリーには約180点の原画類、約300点の書籍、グッズ類が出品される。

■イラストからのコミュニケーション　真鍋博展
～Dream or Reality?～

会　期　2004年8月7日（土）～9月12日（日）
10：00～19：00（土、日は18：00まで）
毎週月曜日休館

会　場　東京ステーションギャラリー
JR東京駅・丸の内中央口下車・赤煉瓦駅舎

入場料　一般800円、大高生600円、中小生400円

出　品　アイザック・アシモフ、アーサー・C・クラーク、星新一や筒井康隆などのSF小説の本、雑誌、原画。「レンズマンシリーズ」の挿絵原画。「アガサ・クリスティ」シリーズ、ユリイカなどの表紙。博覧会の宣伝用ポスター、テレカ、傘などのグッズ類等々。

大阪芸術大学博物館所蔵品展「アンリ・カルティエ=ブレッソン」

「決定的瞬間」という言葉とともに知られる写真界の巨匠アンリ・カルティエ=ブレッソンの作品411点が、大阪芸術大学博物館で3期にわたって紹介される。

この411点は同館の所蔵するコレクションのすべてであり、フォト・ジャーナリストとして世界を巡り歴史の瞬間を記録しただけでなく、人のふとした仕草や光と影が織りなす形を構図の中に収めたカルティエ=ブレッソンの作品を目にするまたとない機会となろう。



パリのサン・ラザース駅、1932年
©Henri Cartier Bresson/MAGNUM PHOTOS

■第1期「ヨーロッパ／ポートレイト」　入場無料

会　期　2004年9月1日（月）～9月18日（土）
10：00～16：00　9/12（日）は休館

会　場　大阪芸術大学　芸術情報センター1階
展示ホール　TEL 0721-93-3781（代）
大阪府南河内郡河南町東山469
近鉄南大阪線「あべの橋」駅より「河内長野」行き準急で「喜志」駅下車。「喜志」駅よりスクールバスか金剛バス「東山」下車。

出　品　ヨーロッパ各地で撮影した写真221点、親交のあった人々のポートレート56点

■レクチャー「決定的瞬間という罠―カルティエ=ブレッソンとパリ写真」　参加費無料

日　時　2004年9月18日（土）13：00～15：00

会　場　AVホール
大阪芸術大学　芸術情報センター地下1階

講　師　今橋映子（東京大学大学院助教授、比較文学・比較文化専攻）
北尾順三（大阪芸術大学教授、写真家）
犬伏雅一（大阪芸術大学助教授、写真史研究）

定　員　200人（先着順・当日受付）

特別展「祈りの道～吉野・熊野・高野の名宝～」

今年7月、高野山、吉野・大峯、熊野三山の三つの霊場をもつ「紀伊山地」が、「紀伊山地の霊場と参詣道」という名称でユネスコの世界遺産に登録された。

本展は世界遺産登録記念企画として開催されるもので、会場は6つのテーマに分けて、「紀伊山地」にたたずむ寺社が所蔵する名品250件（国宝・重要文化財100件を含む）が公開される。

会期　2004年8月10日（火）～9月20日（月・祝）
9：30～17：00（8/14、8/21、8/28の土曜日は19：00まで）月曜日休館（9/20は祝日で開館）

会場　大阪市立美術館（天王寺公園内）
大阪市天王寺区茶臼山町1-82
地下鉄御堂筋線・谷町線・JR「天王寺駅」
近鉄「あべの橋駅」

入場　一般1,200円
高大生900円

展示　重要文化財「後醍醐天皇像」、国宝「金銀字一切経（中尊寺経）」、重要文化財「木造―大日如来坐像」、国宝「那智滝図」、「吉野山図」



木造　如来形坐像
円空作
江戸時代
大峯山寺

招待券希望者は、日本建築協会（06-6946-6981）へ。

ゲニウスロキ2004展―音戸アートスケープ―

広島県音戸町は現在、呉市との合併という局面を迎えており、これを契機に、音戸の過去・現在・未来を考える美術展が企画された。

「ゲニウス・ロキ」とはラテン語で地霊や土地神を意味し、現在では、場所のコンテクストを読み取り、それを建造物の設計や都市計画に反映させるという建築用語として用いられている。

この展覧会では、出品者自ら音戸を訪れ、展示場所を探し、その場所にふさわしいートの制作・展示を行っている。

会期　2004年7月31日（土）～8月29日（日）
10：00～17：00　会期中無休・入場無料

音戸の渡し船は大人片道80円、子供40円

会場　広島県安芸郡音戸町
―坪井・引地・鰯浜・北隠渡・南隠渡周辺―

作家　伊東敏光、岡平愛子、岡本敦生＋野田裕示、加納士朗、木村東吾、河野隆英、櫻井友子、高橋佳江、中村圭、長岡朋恵、藤原勇輝、前川義春、槙原泰介、吉田樹人、米倉大五郎、和田拓治郎

詳しくは、音戸アートスケープ実行委員会（音戸町役場企画課、TEL 0823-52-1114）へ。
または、http://www.artsite.jpへ。

■新刊紹介

『シックハウスがわかる』発刊



大阪府建築士会、大阪建築士事務所協会、日本建築家協会近畿支部で構成された「シックハウスがわかる」編集委員会の編著により『シックハウスがわかる―現場から学ぶ本質と対策―』が、5月に発刊された。

ユーザー向けの本ではなく、また難解な専門書でもない、設計・施工に携わる実務者向けの実践的入門書となっている。

序章　シックハウスの背景と現状
1章　シックハウスの基礎知識
2章　健康被害の実態
3章　医学的見地からみるシックハウス症候群
4章　シックハウス問題における建築士の法的責任
5章　設計監理の進め方
6章　建材の選定方法
7章　換気計画
8章　施工管理
9章　化学物質と測定方法

以上を、建築実務者、研究者、医師、弁護士、患者ら多彩な分野の執筆陣が明快に説き明かす。

発行　学芸出版社
体裁　A5判、208頁
定価　2,100円（税込み）

「風と建築」展

会場では、風土に根ざした住まいの工夫や現代の住宅まで、風と上手につきあっている建築やそのディテールを、写真と映像、模型などを加えて紹介する。

象設計集団の笠原小学校（埼玉県）の深い庇のある半外部空間、筑波大学教授・安藤邦廣氏による越屋根や日射を遮るための置屋根を設けた家づくり、関西で活躍する市居博氏が築80年の生家に学びつくり上げた五感が刺激される自邸、再現された「間垣」など…。

会期　2004年6月4日（金）～8月20日（金）
10：00～18：00　毎週水曜と8/11～8/15休館

会場　INAXギャラリー大阪　TEL 06-6539-3518
大阪市西区新町1-7-1　INAX大阪ショールーム

入場　無料



石川県富来町
冬の季節風にさらされる能登半島の西海岸。海側に開口部を一切つくらないことで風を防いでいる。
写真撮影／西山芳一

日本建築協会

月間の動き

【平成16年 5・6 月分】

平成16年5月

理事会

第2回常任理事会
5月19日（水）15：00～16：40
出席者　佐野会長ほか6名
議　事（1）平成15年度事業報告（案）について
（2）平成15年度収支決算報告（案）について
（3）評議員の委嘱について
（4）会議の開催について
（5）日本建築協会賞について
（6）事務所の移転について
（7）事務所移転に伴う図書の処理について
（8）日本建築材料協会との提携事業について

編集委員会

第2回編集委員会
5月12日（水）18:00～19：40
出席者　設楽委員長ほか6名
議　事（1）2004年6月号～8月号特集経過報告
（2）2004年9月号以降の特集企画
（3）作品作風、広告企画、シリーズ頁等の報告・検討
（4）収支状況報告
第3回計画分科会ー建築系ー
5月25日（火）18：30～21：30
出席者　桜井幹事ほか5名
議　事　9月号特集の企画
第2回構造分科会
5月7日（金）18：00～20：45
出席者　田渕委員ほか5名
議　事（1）「構造の頁」の状況
（2）構造分科会の新年度体制
（3）10月号構造特集の企画
第2回設備分科会
5月14（金）18：00～20：30
出席者　梶井幹事ほか4名
議　事（1）8月号設備特集の企画
（2）「設備の頁」の企画
第2回施工材料分科会
5月20日（木）17：00～18：00
出席者　吉田幹事ほか3名
議　事　施工材料分科会特集について
第2回法令分科会
5月19日（水）14：00～16：00
出席者　山口幹事ほか5名
議　事（1）編集委員会の報告
（2）6月号法令特集の経過報告
（3）自己紹介
（4）「法令コーナー」の企画
第2回作品作風小委員会
5月27日（木）19：00～20：30
出席者　中村副委員長ほか8名
議　事（1）作品の選定
（2）作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
（3）「gallery」掲載報告・予定
（4）前回の編集委員会の報告
第2回広告企画小委員会
5月12日（水）17:00～18：15
出席者　設楽・渡邉正副委員長ほか5名
議　事（1）2004年6月号以降の特集企画ならびに特集関連広告
（2）本年度の広告企画（表紙広告その他）
（3）収支状況報告
第4回読者と選ぶ「建築と社会」賞選考委員会
5月31日（月）14：00～16：30
出席者　井上選考委員長ほか2名
議　事　第4回読者と選ぶ「建築と社会」賞の選考（第2次選考）

事業委員会

第2回情報見学小委員会
5月13日（木）18：00～19：30
出席者　原見・瀬戸川・松浦各副委員長ほか10名
議　事　事業企画の報告と検討
第1回近代建築見学分科会
5月31日（月）18：00～20：10
出席者　山形講師、小林主査ほか1名
議　事　本年度の近代建築見学会の企画について

出版委員会

第2回出版委員会
5月20日（木）18:00～19:00
出席者　上原委員長ほか8名
議　事（1）＜プロのノウハウ＞と特装本の経過報告
（2）今後のテーマと執筆者選定
（3）第28回＜プロのノウハウ＞講座の経過報告
第14回建築教育小委員会（仮称）
5月7日（木）17：30～19：00
出席者　谷川主査ほか7名
議　事（1）「建築を学ぶ―建築設計教育のあすー」の出版企画
（2）今後の作業予定
第23回「建築施工図の作図方法とチェックポイント」小委員会（仮称）
5月13日（木）18:00～19:00
出席者　田中主査ほか3名
議　事（1）「建築施工図の作図方法とチェックポイントに関して」事例報告
（2）今後の作業予定

建材委員会

第1回建材委員会工場見学会
5月25日（火）14：00～16：00
参加者　和田委員長ほか7名
見学先　フジテック㈱茨木製作所

近代建築を学ぶ会

「近代建築を学ぶ会（仮称）」打合せ会
5月7日（金）18：00～21：30
出席者　松隈委員ほか4名　於 阪急電鉄会議室
議　事　「近代建築を学ぶ会（仮称）」の企画について
「近代建築を学ぶ会（仮称）」打合せ会
5月24日（月）18:00～21:00
出席者　松隈委員ほか7名
議　事　「近代建築を学ぶ会（仮称）」の企画について

建築クラブ

第380回建築クラブ朝食会
5月11日（火）8：30～10：00
演　題　「アテネ五輪に向かって躍進する日本水泳界の展望」
講　師　奥田　精一郎氏（大阪水泳協会名誉会長）
参加者　16名

入会者(敬称略)

〔団体会員〕
新菱冷熱工業㈱名古屋支店
〔個人会員〕
大喜多　孝哉（大林組）　植田　隆晴（イトーキクレビオ）　澤田　純一（兵庫県庁）

平成16年6月

総　会

第1回通常総会
6月16日（水）16：00～16：45
出席者　佐野会長ほか1,154名（2,590口）（委任状含）
議　事（1）平成15年度事業報告（案）の件
（2）平成15年度収支決算報告（案）の件
（3）役員選任の件
（4）事務所移転の件

理事会

第1回通常理事会
6月2日（水）15：00～16：01
出席者　佐野会長ほか48名（委任状含）
議　事（1）平成15年度事業報告（案）
（2）平成15年度決算報告（案）
（3）役員選任
（4）事務所移転
（5）会議等の開催
第1回臨時理事会
6月21日（月）16：00～16：25
出席者　佐野会長ほか47名（委任状含）
議　事（1）会長選任
（2）副会長選任
（3）常務理事選任
（4）会長職務代行順位の指定
（5）常設委員長並びに常任理事委嘱
（6）理事の会務分掌

評議員会

第１回評議員会
６月２日（水）14：04～14：41
出席者　佐野会長ほか42名（委任状含）
議　事（１）評議員会議長互選
（２）役員候補者の選任
（３）報告事項　①事務所移転
②平成15年度事業報告（案）
③平成15年度収支決算報告（案）

日本建築協会賞

第６回日本建築協会賞表彰式
６月16日（水）15：00～15：30

編集委員会

第３回編集委員会
６月９日（水）18:00～19：50
出席者　　設楽委員長ほか６名
議　事（１）2004年７月号～９月号特集経過報告
（２）2004年10月号以降の特集企画について
（３）作品作風、広告企画、シリーズ頁等の報告・検討
（４）収支状況報告
第１回計画分科会ー計画系ー
６月29日（火）18：30～20：40
出席者　紅谷幹事ほか４名
議　事　１月号計画特集の企画
第３回構造分科会
６月４日（金）18：00～20：15
出席者　肥嶋幹事ほか１名
議　事（１）10月号構造特集の企画
（２）「構造の頁」の状況
第３回施工材料分科会
６月24日（木）17：00～19：00
出席者　吉田幹事ほか３名
議　事（１）前回の編集委員会の報告
（２）施工材料分科会特集について
第３回法令分科会
６月９日（水）14：00～15：10
出席者　山口幹事ほか２名
議　事（１）６月号「地域住民主体のまちづくりと支援制度」特集の発行
（２）「法令コーナー」の企画
第３回作品作風小委員会
６月24日（木）19：00～20：30
出席者　中村副委員長ほか５名
議　事（１）作品の選定
（２）作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
（３）「gallery」掲載報告・予定
（４）前回の編集委員会の報告
第３回広告企画小委員会
６月９日（水）17:00～18：00
出席者　設楽・渡邉正副委員長ほか４名
議　事（１）2004年７月号以降の特集企画ならびに特集関連広告
（２）本年度の広告企画（表紙広告その他）
（３）収支状況報告

出版委員会

第15回建築教育小委員会（仮称）
６月４日（金）18：00～19：00
出席者　谷川主査ほか２名
議　事（１）「建築を学ぶ―建築設計教育のあす―」の出版企画
（２）今後の作業予定
第24回「建築施工図の作図方法とチェックポイント」小委員会（仮称）
６月10日（木）18:00～19:00
出席者　田中主査ほか３名
議　事（１）「建築施工図の作図方法とチェックポイントに関して」事例報告
（２）今後の作業予定
＜プロのノウハウ＞講座（第28回）「プロが教えるキッチン設計のコツ」
６月10日（木）13：30～15：30　18：30～20：30
講　師　井上まるみ/住まいの研究室主宰
場　所　ハービスPLAZA　４階　リビングミュージアム・イベントルーム
参加者　62名

近代建築を学ぶ会

「近代建築を学ぶ会（仮称）」打合せ会
６月28日（月）18：00～20：00
出席者　松隈委員ほか３名
議　事　「近代建築を学ぶ会（仮称）」の収支計画他

建築クラブ

第381回建築クラブ朝食会
６月８日（火）８：30～10：00
演　題　孫子のために―地球温暖化についてー
講　師　葉山　幸雄氏（大阪府地球温暖化防止活動推進センター所長）
参加者　26名

入会者(敬称略)

〔個人会員〕
錦織　亮雄
（新広島設計）

日本建築協会企画・販売

出版図書一覧

1917年3月に創設された日本建築協会（当時・関西建築協会）は、すでに昭和初期には大阪近辺で住宅博覧会や建築講演会を開く一方、当時は入手しにくかった建築の情報を図書の出版という形で会員に提供していた。

＊

以後、創立周年記念事業として、その時代の動きをとらえて単行本を出版している。

50周年、60周年、70周年、そして80周年に、図書の出版が企画され、現在も継続して発行・販売されている出版物は、以下のとおり。

＊

購入希望者は、㈱日本建築協会事務局（TEL06－6946－6981、FAX06－6946－6984）まで。

日本建築協会創立60周年記念事業

建築技術選書

A5判・130頁～160頁　発行:学芸出版社　本体価格¥1,200～¥1,400

- 1 茶室の話　岡田孝男
- 3 マイコンによる構造設計のすすめ（改訂版）　魚木晴夫
- 5 すまいの語録　茶谷正洋
- 7 構造計画とやさしい力学1　須賀好富
- 8 建具の知識と意匠　山片三郎
- 9 エレベータ・エスカレータ 立体駐車場　木村利雄
- 10 構造計画とやさしい力学2　須賀好富
- 13 医院・診療所の計画と設計　池田有隣・船越暉由
- 14 設計のコンピューター手法　飯塚英雄
- 16 石垣と石積壁　窪田祐
- 17 基礎と地盤の手ほどき　中堀和英
- 18 ショッピングセンターの計画　西脇顕正
- 19 住宅設計とインテリア　福岡喜久雄
- 21 住宅の家具　光藤俊夫
- 23 設備技術者のための建築再入門　光安義光
- 24 鉄骨構造の話　金多潔・甲津功夫・西沢英和
- 26 建物と地震災害　竹内吉弘・島田耕一
- 28 建築金物の知識　立野一郎
- 30 住宅三備心得帳　平田純一
- 31 住宅のエレクトロニクス　監修　小林郁
- 32 建築塗装の手引き　児島修二
- 33 建築式典の実際　若林嘉津雄
- 34 建築設計と高齢者・身障者　吉田あこ
- 36 日本壁　山田幸一
- 37 身近な耐震設計法　前川陽一
- 38 住宅の照明　監修　大島博
- 39 建築を志す人びとへ　日本建築協会出版委員会
- 特装本 火災安全学入門　岡田光正

選書シリーズは、在庫図書を掲載

日本建築協会創立60周年記念事業「建築技術選書」姉妹篇

〈プロのノウハウ〉シリーズ

四六判2色刷り　発行:学芸出版社　本体価格¥1,600～¥2,500

- TQCから見た建設業　荒木陸彦
- 躯体工事監理のチェックポイント100　須賀好富
- 空調設備のトラブル50　建築設備トラブル研究会
- 衛生設備のトラブル50　建築設備トラブル研究会
- 現場マンのアイデア発想　合原一夫
- 建築基準法の実際　矢吹茂郎
- ニュー組積建築のすすめ　福島孝之　他
- 建築物の消防法を読みこなすコツ　高木任之
- 鉄筋工事・本音の現場学　荒川治徳
- 建築基準法の難解条文を読みこなすコツ　高木任之
- 工業化住宅・考 これからのプレハブ住宅　松村秀一
- 鉄骨工事の現場学　石田満喬
- 建築紛争の実際　岡本辰義
- 仕上工事監理のチェックポイント　日建設計監理業務研究会
- ゼロ災への道 建設現場の安全管理活動　表　一郎
- 木造住宅のしくみ 在来工法の基本と応用　浅野平八・東　敏博
- コンクリート工事のチェックポイント100　加賀秀治
- インテリアコーディネートの100ポイント　町田ひろ子監修／松本　茂・村元俊子著
- 新版 建築基準法を読みこなすコツ　高木任之
- 木づくりの常識非常識　上村　武
- 建築関連法規を読みこなすコツ　高木任之
- 都市計画法読みこなすコツ　高木任之

日本建築協会創立70周年記念事業

選書特装版

B5判　発行:学芸出版社　本体価格¥2,800～¥3,800

- 構造コストと経済設計　須賀好富
- 新・建築と設備の接点　宮脇　毅・南部　武
- 建築設備の健康診断　牧野　茂
- 外壁構法チェックリスト　飯塚五郎蔵
- 水にまつわるトラブルの事例・解決策〈建築篇〉　「建築漏水」編集委員会
- 建築・都市・住宅・土木ー情報アクセスブック　菊岡倶也
- 建築デザインのための構造計画　須賀好富
- 場所打ち杭の設計と施工　阪口　理
- 建築と緑　瀧　光夫
- 入門・建築積算　生島道春
- 水にまつわるトラブルの事例・解決策〈設備篇〉　「設備漏水」編集委員会

昭和生まれ　関西の建築家50　1987年

A4判　企画・発行：日本建築協会　本体価格1,500円

日本建築協会建築クラブ朝食会300回記念

講演記録集 **話のはなし**　1997年

B6判5分冊　企画:日本建築協会建築クラブ

民間（旧四会）連合協定

工事請負契約約款

A4判のみ取り扱い

工事請負契約書・仲裁合意書・契約書使用上の留意事項

1部¥230（消費税含）送料 実費

日本建築協会創立70周年記念出版

住宅近代化への歩みと日本建築協会　1988年

A4判　企画・発行：日本建築協会　本体価格1,500円

日本建築協会創立75周年記念出版

工高生デザインコンクール入選作品集　1992年

A4判　企画・発行：日本建築協会　定価2,000円

日本建築協会創立80周年記念出版

建築を志す人びとへ

A5判　日本建築協会出版委員会編著　本体価格1,800円

作品作風：市立池田病院増築棟
メーカーリスト

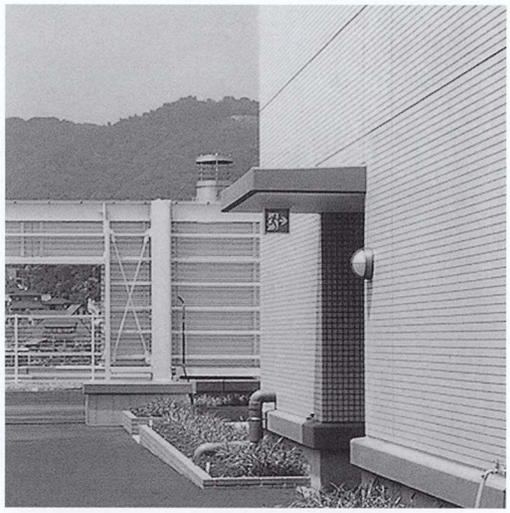
建築工事有志

株式会社川島織物販売	大阪府吹田市広芝町8-26　TEL06-6339-1111
小松ウオール工業株式会社	大阪市中央区西心斎橋1-1-13東邦ビル３Ｆ　TEL06-6241-8416
株式会社セントラルユニ	大阪市中央区常盤町1-3-8（中央大通ＦＮビル）TEL06-6910-4181
東リ株式会社	大阪市中央区大手前1-7-31　OMMビル　TEL06-6943-1645
フジモリ産業株式会社	大阪市中央区備後町3-4-1山口玄ビル４Ｆ　TEL06-6228-3863









空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話06(6302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

より快適な水環境をめざして
給排水衛生設備，冷暖房設備，消火設備の設計，施工

株式会社 西原衛生工業所 大阪本店

大阪本店　〒531-0071　大阪市北区中津六丁目8番4号
TEL 06-6458-3628（代表）
本　　社　〒108-0023　東京都港区芝浦三丁目6番18号
TEL 03-3452-7441（代）
支　　店　札幌・東北・新潟・東関東・横浜・名古屋・九州

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)6441-8231
東京本社　〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　　社　名古屋・福岡
支　　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

CHOYO
人がいる多彩なフィールドで、
新しい限界に挑戦しています。

電気設備設計施工
朝陽電気株式会社
代表取締役　山本貴士

本　　社　〒530-0005 大阪市北区中之島三丁目2-4(朝日ビル)
TEL 06(6385)1361(代)　FAX 06(6385)1050

空気調和設備
給排水設備
電気設備
産業設備
水処理施設
環境施設

三機工業株式会社
取締役社長　宅　清光
常務執行役員関西支店長　畑佐彰保

関西支店　大阪市淀川区宮原3-4-30 ニッセイ新大阪ビル　電話 06(6350)8100
本　　社　東京都千代田区有楽町1－4－1　電話 03(3502)6103
支　　店　北海道・東北・関東・千葉・横浜・北陸・名古屋・京都・神戸・四国・中国・九州

電気設備工事設計施工
東光電気工事株式会社
関　西　支　社
常務取締役支社長　髙橋幸久

大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号　電話大阪(6202)0325～9番
本　　社　東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支　　社　北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・北関東・中部・九州

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　　社　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話06-6363-1671
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03-3344-7911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話06-6363-1371
支　　店　仙台・横浜・名古屋・京都・神戸・広島・福岡

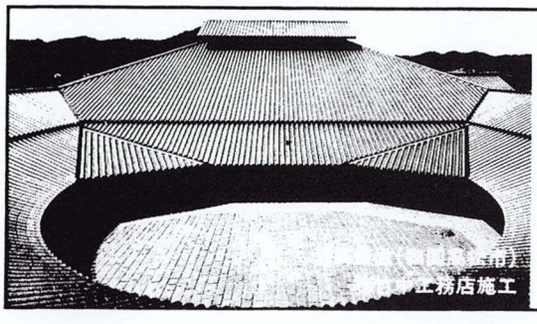
電気設備設計施工
株式会社 三興社
代表取締役社長　上田正雄

本　社　大阪市北区堂島浜1—4—19（日土地堂島ビル）
電　話　06（6442）3671（代）
支　店　東京都中央区日本橋茅場町2丁目17番3号
電　話　03（3666）1478（代）
営業所　堺・泉州・泉南・滋賀

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む——
株式会社精研

本　　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号(オートセンタービル1・2階)
〒542-0066 電話 大阪（06）6768－5031代表
メンテナンス　電話　大阪（06）6768－1651代表
東京支社　東京都文京区小石川1丁目12番14号(日本生命小石川ビル7階)
〒112-0002　電話（03）5689－2351代表

OKUJU
スペースクリエイター
建築に革命をもたらした技術がある
「大規模天井無足場工法」
内外装創作パネル・システム天井・間仕切
株式会社オクジュー
本社
大阪市北区西天満5丁目3番7号　〒530-0047
TEL(06)6312-4131　FAX(06)6312-7998
東京・九州・横浜・南九州・名古屋・上海



＊奉仕感謝の店
タイル及び規格石一式施工

株式会社 川岸窯業商店
本　　社　大阪市西区西本町1の13の33
TEL.06—6532—0641(代表)
FAX.06—6535—5181
天理営業所　天理市丹波市新町49

デンカCSAファミリー製品

●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート躯体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・網野（07727）2−2220
舞鶴（0773）76−0133

金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）6332−6861
TEL 東京（03）3272−8501

小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）6443−6181

光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）6252−6000

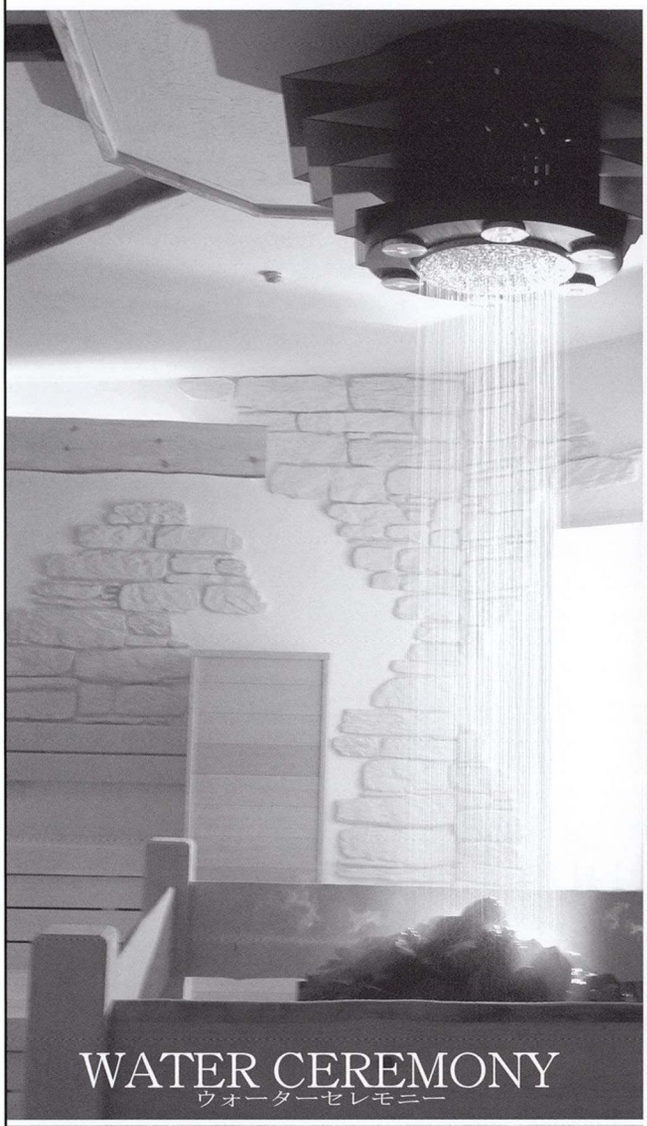
東郷化成株式会社
TEL 滋賀・守山（0775）83−2381
TEL 大阪（06）6877−1581

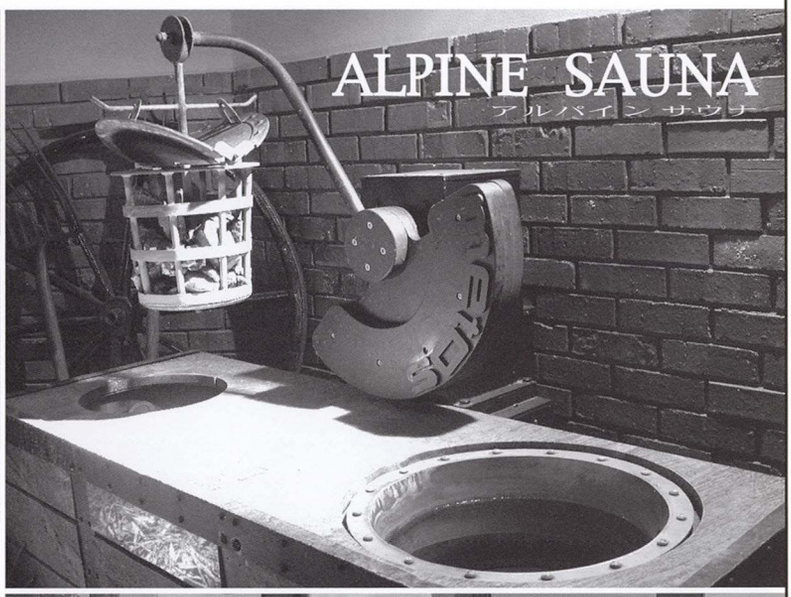
Digital Pri-Press
AOBA PRINTING CO.,LTD.,
代表取締役社長 依藤孝行
青葉印刷株式会社
〒534-0027 大阪市都島区中野町2丁目10番11号
Phone.06-6351-5428 Fax.06-6351-5299

www.naniwa.com
We have hope

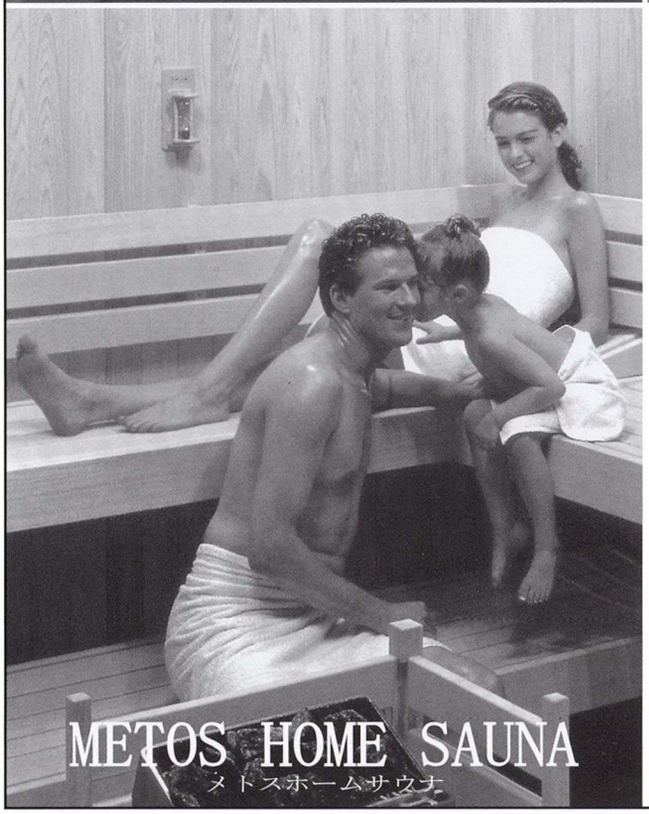
■印刷事業 ポスター、カタログ、パンフレット、書籍、年鑑、社史、雑誌、文字、画像データ処理
■メディア事業 SPプランニング・コンサルティング、ITソリューション、web及びメディアコンテンツ企画制作、
株式会社NPCコーポレーション
本　社 〒530-0043 大阪市北区天満1-9-19
tel:(06)6351-7271(代) fax:(06)6352-7479
第二ビル 〒530-0043 大阪市北区天満1-11-8
tel:(06)6351-0128(代) fax:(06)6351-0208
東京支社 〒105-0004 東京都港区新橋6-17-2
tel:(03)3433-5211(代) fax:(03)5776-7733
(旧社名ナニワ印刷㈱、日本データネット㈱)

metos









より快適な心地よさを求めて

METOS CREATURES

中山産業株式会社 http://metos.co.jp

本　　社　〒104-0061東京都中央区銀座3-11-5（第2中山ビル）
TEL（03）3542-0333（代）　FAX（03）3542-6765

大阪支社　〒550-0004大阪市西区靱本町1-6-6（大阪華東ビル）
TEL（06）4803-0168（代）　FAX（06）4803-0456

札幌支社　〒060-0041札幌市中央区大通り東7丁目（ノースシティ・エンジニアビル）
TEL（011）272-3201（代）　FAX（011）272-3205

仙台支社　〒981-3133仙台市泉区泉中央3-18-4（オフィス21泉）
TEL（022）371-3550（代）　FAX（022）371-3551

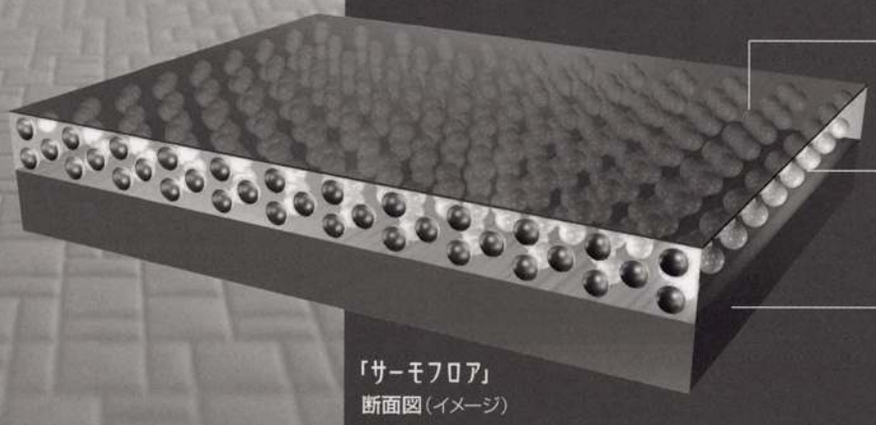
名古屋支社　〒464-0074名古屋市千種区仲田2-18-6（新仲田ビル）
TEL（052）763-2811（代）　FAX（052）763-2870

福岡支社　〒812-0014福岡県福岡市博多区比恵町16-26
TEL（092）471-5801（代）　FAX（092）471-5802

INAX
For Precious Life

さあ！もう！おフロは「サーモフロア」

INAXが、不快な浴室床の冷たさを解決。
身体にやさしいお風呂の床を
発明しました。



「サーモフロア」
断面図（イメージ）

サーモフロア 搭載のシステムバスルーム、新登場。



戸建住宅用システムバスルーム
i-bath 2003
サーモフロア 標準搭載



戸建住宅用システムバスルーム
Lukinar ルキナ
サーモフロア 標準搭載



マンションリフォーム用 システムバスルーム
BYRW シリーズ
サーモフロア 標準搭載



戸建住宅用システムバスルーム
e-bath BX

お風呂の床に大発明

サーモフロア
thermo-floor

株式会社INAX　関西統括支社　大阪市西区立売堀一丁目3番13号　TEL06-6539-3500　ホームページ http://www.inax.co.jp

建築と社会 08 2004 vol.85 no.989
社団法人 日本建築協会 〒540-6591 大阪市中央区大手前1-7-31 電話:06-6946-6981 FAX:06-6946-6984 http://www.aaj.or.jp
毎月1回1日発行 昭和24年5月19日第3種郵便物認可 ISSN 0912-8182
定価1,200円(税込)
正会員の購読料は会費に含めて徴収